KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立ブームスプレーヤ

BSQ4000S

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

目　次

安全にご使用いただくために…… 3
1. 付属品の確認 …… 6
2. 警告表示ラベル …… 7
3. 各部の名称 …… 8
4. 作業の準備 ……11
4-1. トラクタの準備 ……11
4-2. 装着方法 ……12
4-3. 各コントローラ、電源コードの配線 ……14
4-4. ブーム / 散布コントローラの操作方法（ブームの操作）……15
4-5. ステップ・はしごについて ……17
5. 散布作業 ……18
5-1. 運転前点検 ……18
5-2. 作業前の点検 ……18
5-3. エンジン始動、燃料の取り扱い ……18
5-4. 移動時、運転操作時の注意 ……19
5-5. 散布計画 ……19
5-6. 作業速度の計算 ……20
5-7. 給水の方法 ……21
5-8. 薬剤の調合 ……23
5-9. 薬液溶解レバーの操作方法 ……24
5-10. 散布作業中のストレーナ清掃 ……25
5-11. 散布作業時の注意 ……26
5-12. 散布作業 ……27
5-13. 作業後の注意 ……29
6. 作業終了後 ……30
6-1. 清掃 ……30
6-2. 薬液タンク内の洗浄方法 ……31
7. 点検整備・保管 ……32
7-1. 日常点検・定期点検 ……32
7-2. グリスアップ一覧 ……34
7-3. トラニオンへのグリスアップ ……36
7-4. タイヤハブへのグリスアップ ……36
7-5. ノズルの点検 ……37
7-6. 吸水・高圧ストレーナの点検 ……37
7-7. 流量センサの点検 ……37
7-8. 薬液ポンプの点検 ……38
7-9. 薬液ポンプのオイル交換 ……38
7-10. 薬液ポンプの安全弁とエアチャンバーについて ……39
7-11. 増速機のオイル交換 ……40
7-12. タイヤの点検 ……40
7-13. スライドブームの点検 ……40
7-14. 日常保管 ……41
8. 長期保管 ……42
8-1. 水抜き ……42
8-2. 不凍液による凍結防止 ……43
9. 故障診断表 ……45
10. 仕様 ……47
11. メインコントローラ配線図 ……48
12. 負荷コード配線図 ……49
13. ウインカーコードカプラ配線図 ……50
14. 補用品と消耗品 ……51

安全にご使用いただくために

製品をご使用になる前に、この章を必ずお読みください。

○ ここに記載されている「注意事項」は、安全に関する重要な項目です。必ず守ってください。
○ 本文の中にも重要な「注意事項」を記載していますので、必ずお読みください。

警告表示

本書や製品では作業者などが人身事故を負う危険性のある事柄を、下記の警告表示で示しています。
安全作業のためによく読んで必ず守ってください。

⚠ 危険
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警告
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注意
その警告に従わなかった場合、けがを負う恐れのあるものです。

その他の表示

本書では警告表示以外に下記の表示を使って説明しています。

	丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重要
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

安全にご使用いただくために

重要なお知らせ

⚠ 警告

製品をご使用になる前に、取扱説明書を必ずお読みください

製品の使用目的以外の使用禁止

○ この製品は薬液散布作業をするためのものです。
○ 本書に記載されている用途以外に使用しないでください。
○ 日本国内でのみ使用してください。
☆ 事故や重傷を負う原因となります。

製品の改造禁止

○ 製品を改造しないでください。
☆ 事故や重傷を負う原因となります。

点検・整備をしていない製品の使用禁止

○ 定期的な点検・整備をしてください。
○ カバーを外したままで運転しないでください。
☆ 事故や重傷を負う原因となります。

製品の貸与、譲渡

○ 製品を貸すとき、借りて作業する人に取扱説明書を読ませ、十分な指示、訓練を行った後、取扱説明書と製品を貸与してください。
○ 製品を貸すとき、譲るときは、この取扱説明書もわたしてください。
☆ 事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用者

○ 体調不良、疲労している、酒類を飲んでいる、薬物を服用しているなど、体調が万全でないときは使用しないでください。
○ 次のような人は使用しないでください。
- 妊娠している人
- 農薬の影響を受けやすい人
- 16 歳未満の人
- 指導者のいない運転未熟者
- 取扱説明書の内容を理解していない人

☆ 事故や重傷を負う原因となります。

健康管理

○ 休憩をとりながら余裕を持って作業してください。
○ 長時間の作業はさけ、2 時間を限度にしてください。
☆ 健康障害を受ける恐れがあります。
○ 作業中や作業終了後、身体に異常を感じた時は医師の診断を受け、使用した農薬の種類を告げてください。
☆ 処置が遅れることにより、健康障害につながることがあります。

製品の使用環境・作業環境

○ 下記のような場合は製品を使用しないでください。
- 降雨時や落雷の恐れがあるとき
- 急傾斜地や足元が不安定で滑りやすい場所
- 夜間や視界が悪い場所

☆ 転倒や滑落、誤った操作などにより、重傷を負う原因となります。

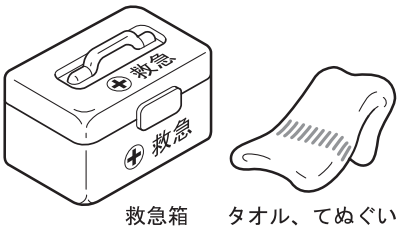
安全にご使用いただくために

⚠ 警告

事故やけがへの備え

○ 事故やけがに備え、下記の用具を用意してください。
- 救急箱（応急手当用）
- タオルや、てぬぐい（止血用）
- 呼子や携帯電話（外部との連絡用）

☆ 応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。



救急箱　タオル、てぬぐい

発火・発煙・火災への備え

○ 発火・発煙・火災に備え、消火器やシャベルを用意してください。
○ 周囲に類焼しないようにシャベルで砂などをかけるか、消火器で消火してください。
※ あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。

⚠ 注意

取扱説明書

○ この取扱説明書には、製品の組立や操作、点検・整備に必要な事項が書かれているので良く読んで理解してください。
○ この取扱説明書は、いつでも読めるように保管してください。
○ 製品の改良のため、予告なしに内容を変更することがあります。
○ 使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。
○ 損傷により読めなくなったり、紛失した場合には、販売店から購入してください。
☆ 事故や重傷を負う原因となります。

保護具の着用

○ 農薬散布時は、適切な衣類と正しい保護具を身に付けてください。農薬に直接触れないでください。
☆ 農薬に触れたり吸引すると、薬害事故を引き起こす原因となります。
○ 首にタオルを巻いたり、腰てぬぐいをしないでください。
☆ 回転部に巻き込まれて、事故の原因となります。
○ 作業中に着た服は、他の衣類と別に洗ってください。
☆ 薬害の原因となります。



重要

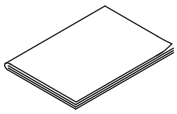
保証書

・使用目的以外の作業による製品の故障、あるいは改造による故障の場合はメーカー保証の対象外になりますので、ご注意ください。詳しくは保証書をお読みください。

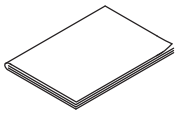
1. 付属品の確認

○ 欠品や破損がありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

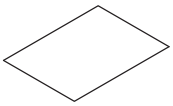
取扱説明書（本機）



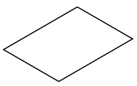
取扱説明書（SNU5）



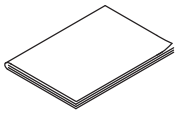
SNU5早見表



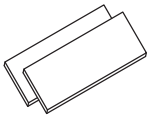
保証書



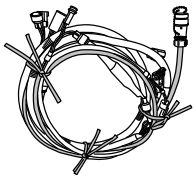
公道走行キット
取付要領書



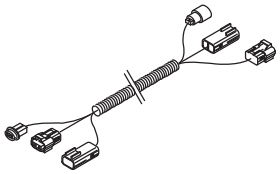
マジックテープ



ワイヤーハーネス4本



電動調圧弁ケーブル



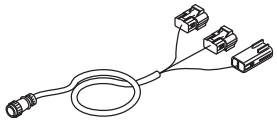
電源調圧コネクタ
（SUN5 電源コード）



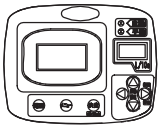
電源コード



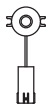
制御系コード



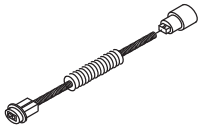
コントローラ



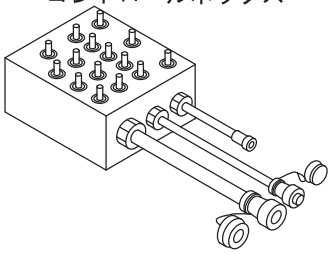
ブザー



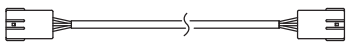
サージキラー



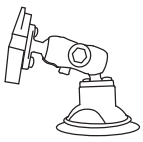
コントロールボックス



車速センサ



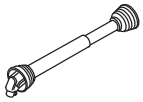
取付吸盤



スパナツール



ユニバーサルジョイント



ストレーナ
（逆止弁内蔵）

吸水ホース



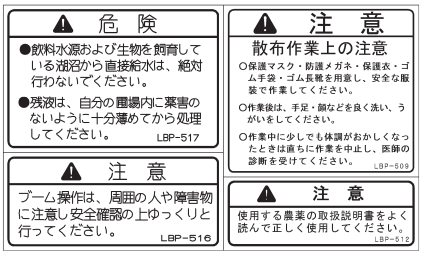
2. 警告表示ラベル

○ 本書で説明している製品の警告表示ラベルを示しています。ご使用前にラベルの意味を理解してください。
○ ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店からラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

部品番号：X505-011510



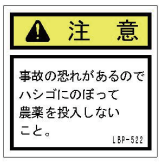
部品番号：X505-011520

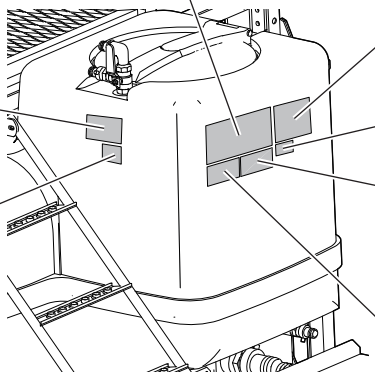


部品番号：X505-006860

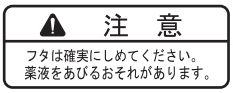


部品番号：X505-006870





部品番号：X505-006600



部品番号：X505-006850



部品番号：X505-006550

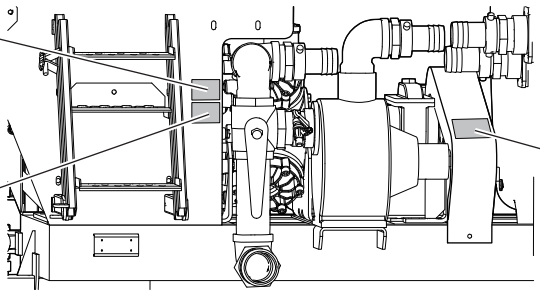


部品番号：X505-006570



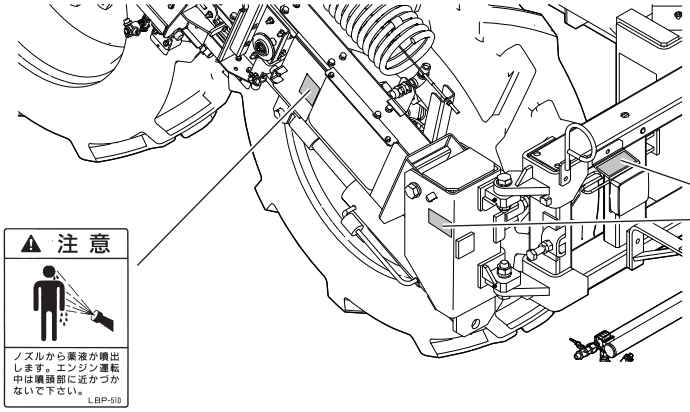
部品番号：X505-006840





部品番号：X505-006080

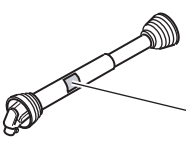




部品番号：X505-006560（両側）

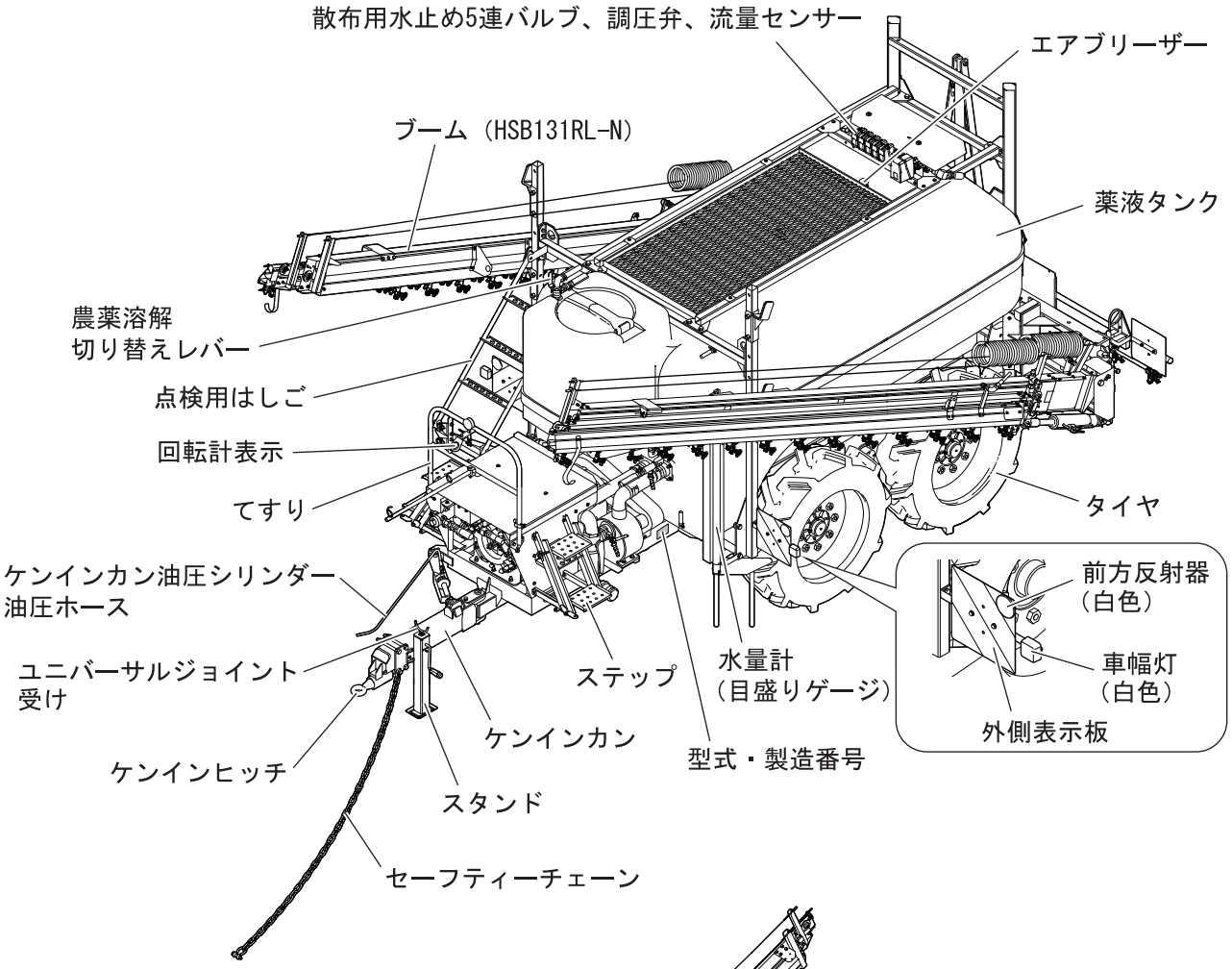


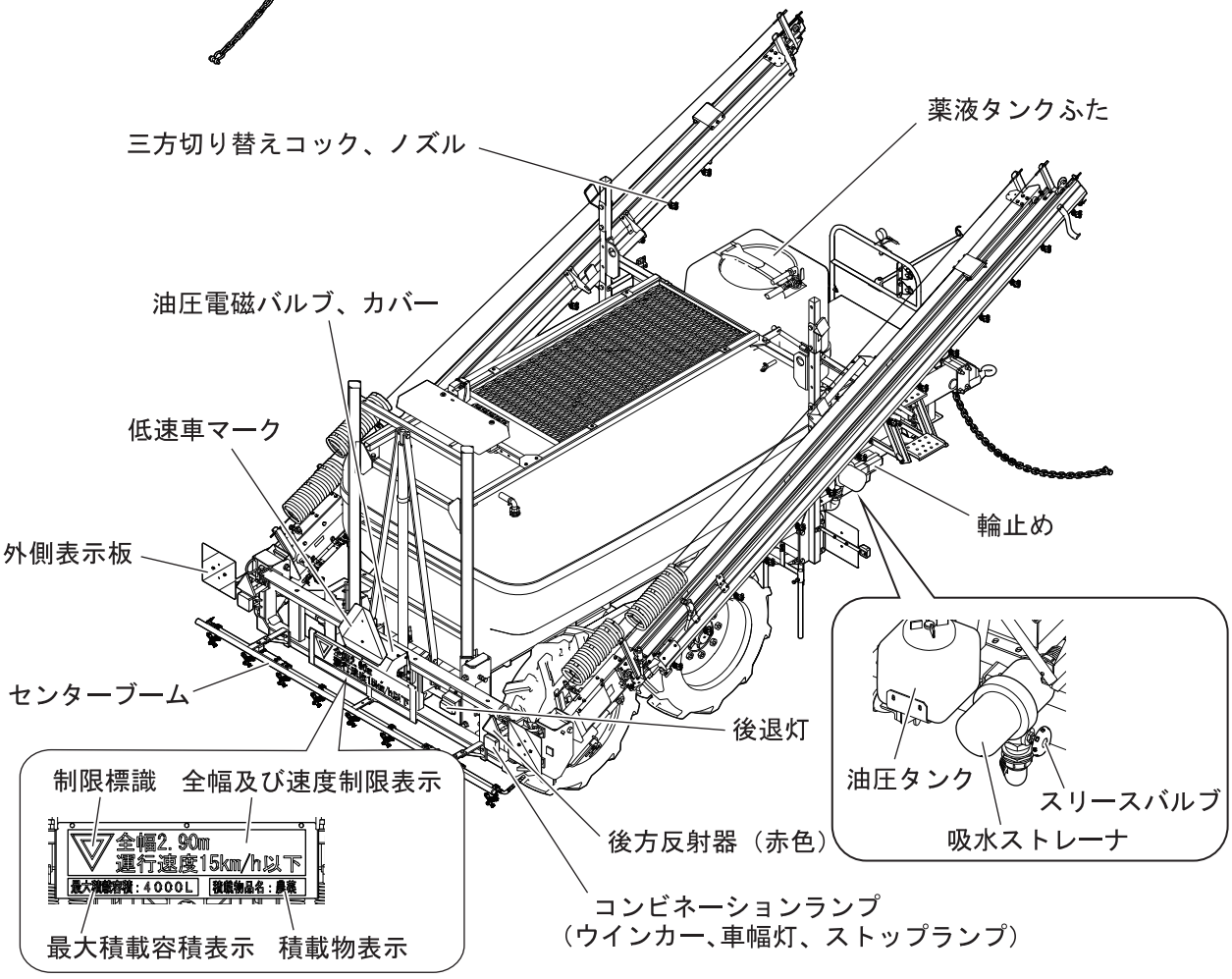
部品番号：X505-006590（両側）



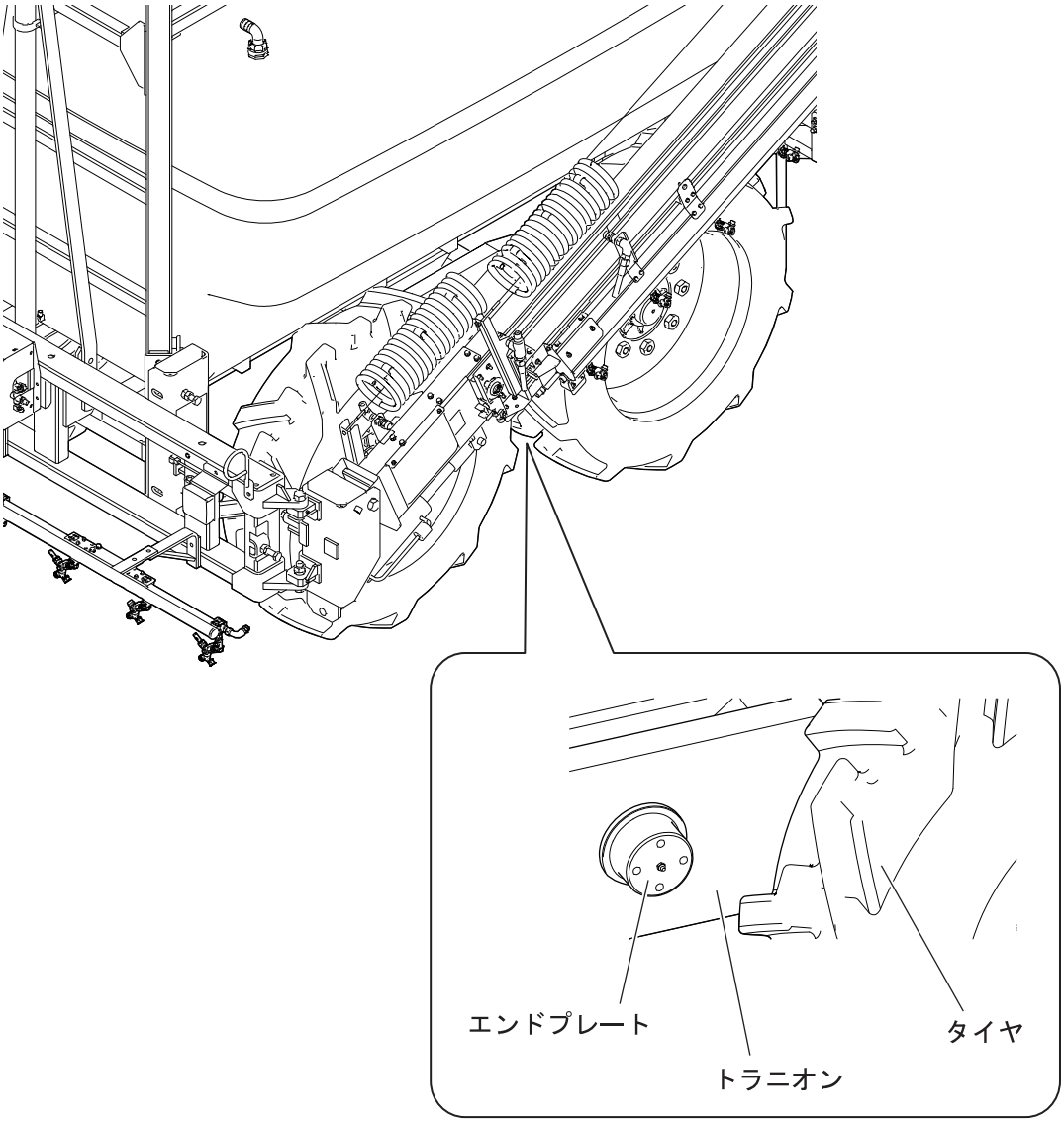


3. 各部の名称

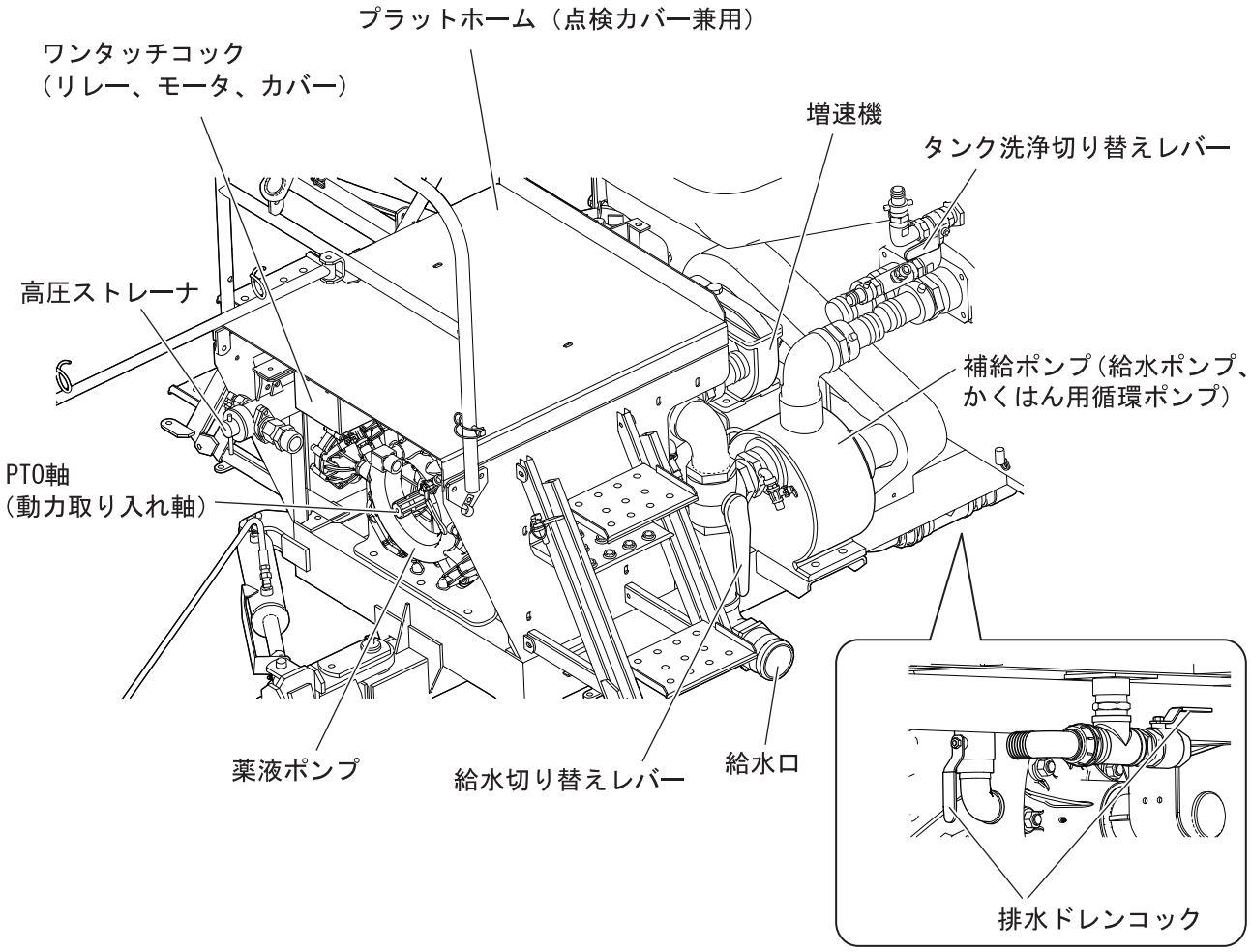

散布用水止め5連バルブ、調圧弁、流量センサー
エアブリーザー
ブーム（HSB131RL-N）
薬液タンク
農薬溶解
切り替えレバー
点検用はしご
回転計表示
てすり
タイヤ
ケンインカン油圧シリンダー
油圧ホース
前方反射器
（白色）
車幅灯
（白色）
外側表示板
ユニバーサルジョイント
受け
ステップ
水量計
（目盛りゲージ）
ケンインカン
ケンインヒッチ
型式・製造番号
スタンド
セーフティーチェーン


薬液タンクふた
三方切り替えコック、ノズル
油圧電磁バルブ、カバー
低速車マーク
輪止め
外側表示板
センターブーム
後退灯
油圧タンク
スリースバルブ
吸水ストレーナ
制限標識　全幅及び速度制限表示
全幅2.90m
運行速度15km/h以下
最大積載容積：4000L
積載物品名：農薬
後方反射器（赤色）
コンビネーションランプ
（ウインカー、車幅灯、ストップランプ）
最大積載容積表示　積載物表示

3. 各部の名称



3. 各部の名称

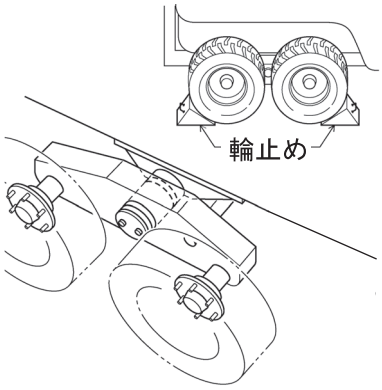

プラットホーム（点検カバー兼用）
ワンタッチコック
（リレー、モータ、カバー）
増速機
タンク洗浄切り替えレバー
高圧ストレーナ
補給ポンプ（給水ポンプ、
かくはん用循環ポンプ）
PTO軸
（動力取り入れ軸）
薬液ポンプ
給水切り替えレバー
給水口
排水ドレンコック

4. 作業の準備

4-1. トラクタの準備

⚠ 危険

・ 本機が動かないようにタイヤに輪止めをしてください。



⚠ 警告

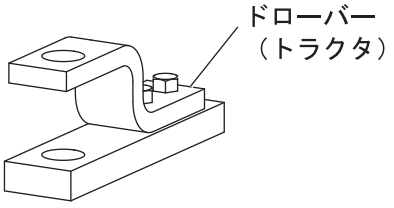
・ トラクタの前輪が浮くと危険です。トラクタのフロントにウエイトを取り付け安全を確保して走行してください。

⚠ 注意

・ 周囲に作業に関係ない人がいないかどうか、安全を十分に確認してください。
・ 作業中以外は、エンジンを停止してください。

重要

・ トラクタの操作はトラクタの説明書に従ってください。トラクタの油圧操作はトラクタの所有者が行なってください。



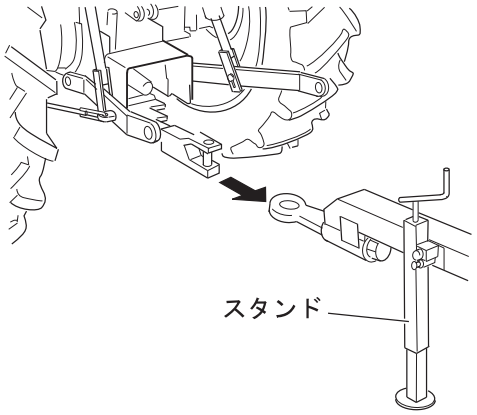
● ドローバーの確認

● ロアリンクのチェックチェーンを緩めるかまたは揺れ止めを取り外してください。

● PTO シャフトカバーを外してください。

4. 作業の準備

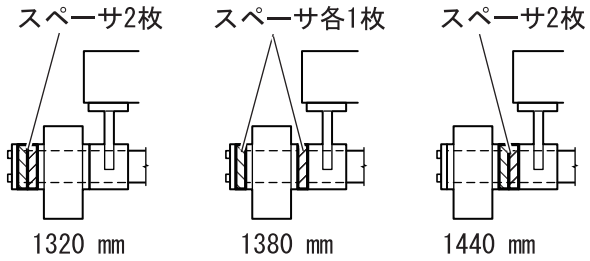
4-2. 装着方法



●薬液を完全に抜き、水平堅土上で行なってください。

●トラクタに牽引ヒッチの高さをスタンドで調整し、あわせます。

●トラクタを静かにバックさせ、取り付けます。

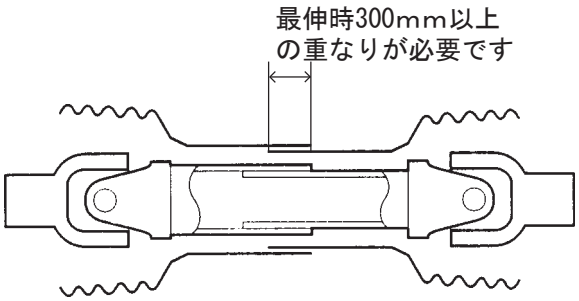


トレッドをうね幅に合わせて調整します。

●うね幅は 1320、1380、1440 mm の 3 段階の調整が可能です。

工場出荷時は 1380 mm です。

●調整する場合は、左右均等に調整してください。



●スタンドを外してください。

●ユニバーサルジョイントを取り付けます。

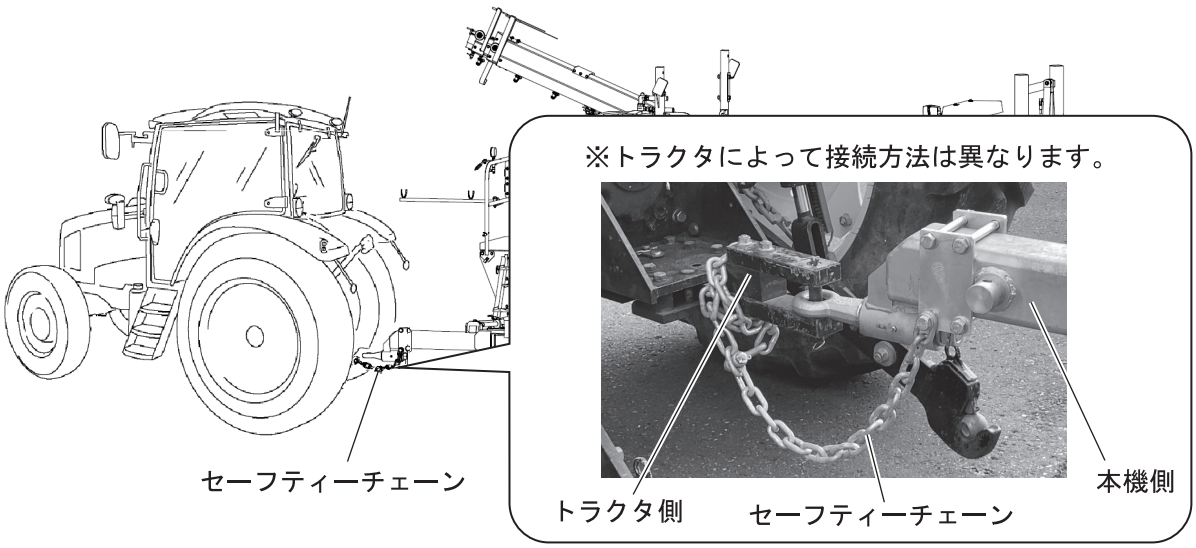
重要
・ ユニバーサルジョイントが長い場合は切断してください。 旋回時にジョイントや動噴が破損する恐れがあります。

⚠ 注意
・ ロックピンが確実に作動したか確認してください。 ・ カバー等が破損しているものは新しいものと取り替えてください。 ・ 回転防止チェーンは必ず使用してください。

4. 作業の準備

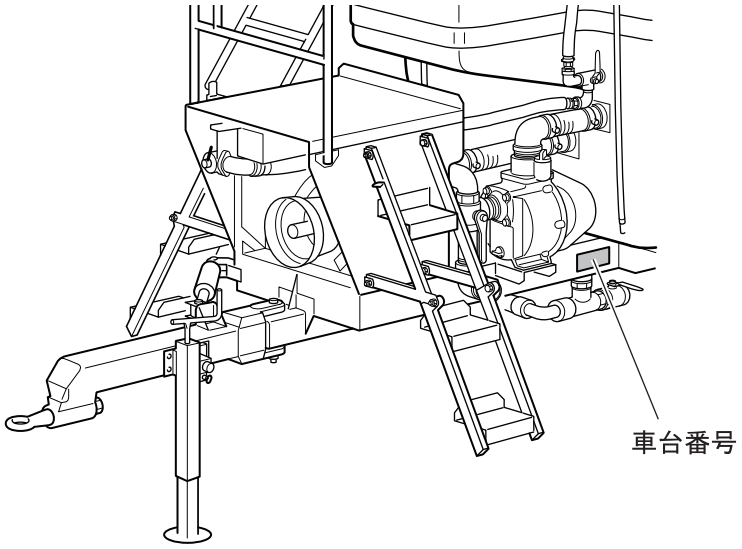
重要
農耕用トラクタについて「道路運送車両法」に基づく保安基準に緩和措置が設けられました。 それにより、必要な対応を行うことで、「本製品」を装着しトラクタで道路を走行できるようになりました。お持ちのトラクタで道路走行をするために必要な対応を確認してください。 詳細は一般社団法人日本農業機械工業会のホームページ内、公道走行に関わる案内 http://www.jfmma.or.jp/koudo.html でご確認いただくか、トラクタ購入店もしくは本製品購入店までお問い合わせください。

公道走行をする際は、セーフティーチェーンで本機とトラクタを接続してください。



車台番号の打刻について

このブームスプレーヤには、道路運送車両法に基づき自動車としての車台番号を打刻しています。



4. 作業の準備

4-3. 各コントローラ、電源コードの配線

●コントローラは、運転席から操作しやすい平坦な面に置いてください。

●配線の接続は下図に従い、コネクタは手でしっかり締め付けてください。

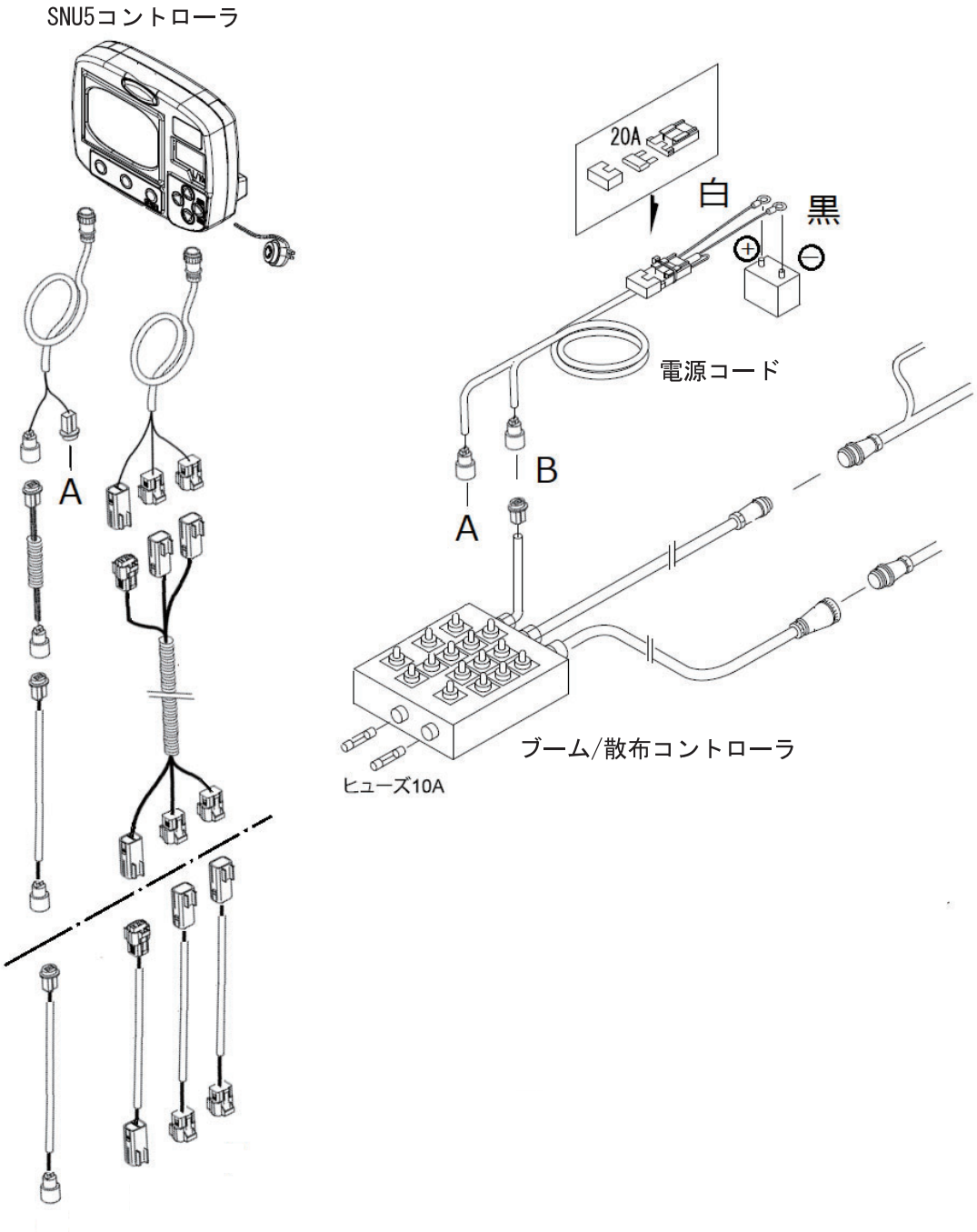
●電源コードは、バッテリの端子にボルトで確実に取り付けてください。

・白色コード ： バッテリの［＋］端子

・黒色コード ： バッテリの［－］端子

重要
色を間違えないように配線してください。配線を間違えると、バッテリ直後のヒューズが切れます。 バッテリ端子を取り付けるときは＋側を先に取り付け、取り外すときは－側から取り外してください。

●周囲の安全を確認後、トラクタのエンジンをかけて試運転をしてください。

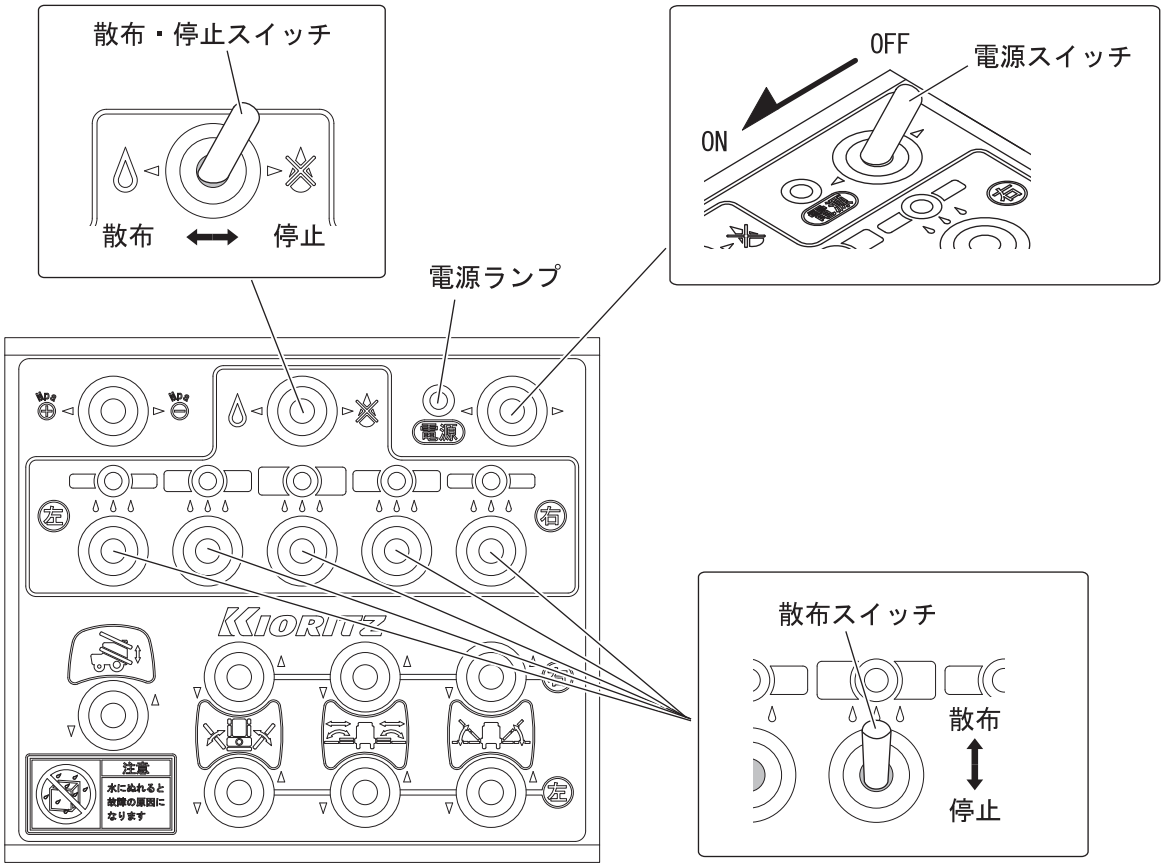


4. 作業の準備

4-4. ブーム / 散布コントローラの操作方法（ブームの操作）

⚠ 注意
・移動走行中はブーム操作をしないでください。 ・ブーム操作は周囲の人や障害物に注意して安全確認の上で、ゆっくり行なってください。

重要
・高さを上下調整する場合は、ブームを開いた状態で操作してください。 ・移動または旋回する場合は、ブームを最縮し、ブームを格納してから行なってください。 ・作業時以外は SUN5 の電源を OFF にしてください。



電源スイッチ

ON にすると電源ランプが点灯します。

散布・停止スイッチ

散布･停止スイッチを停止にすると､散布スイッチの位置（散布･停止）にかかわらず､散布を停止します。

薬液ポンプで吐き出された水が、直接タンクに戻り調圧弁を通らないため、加圧はできません。

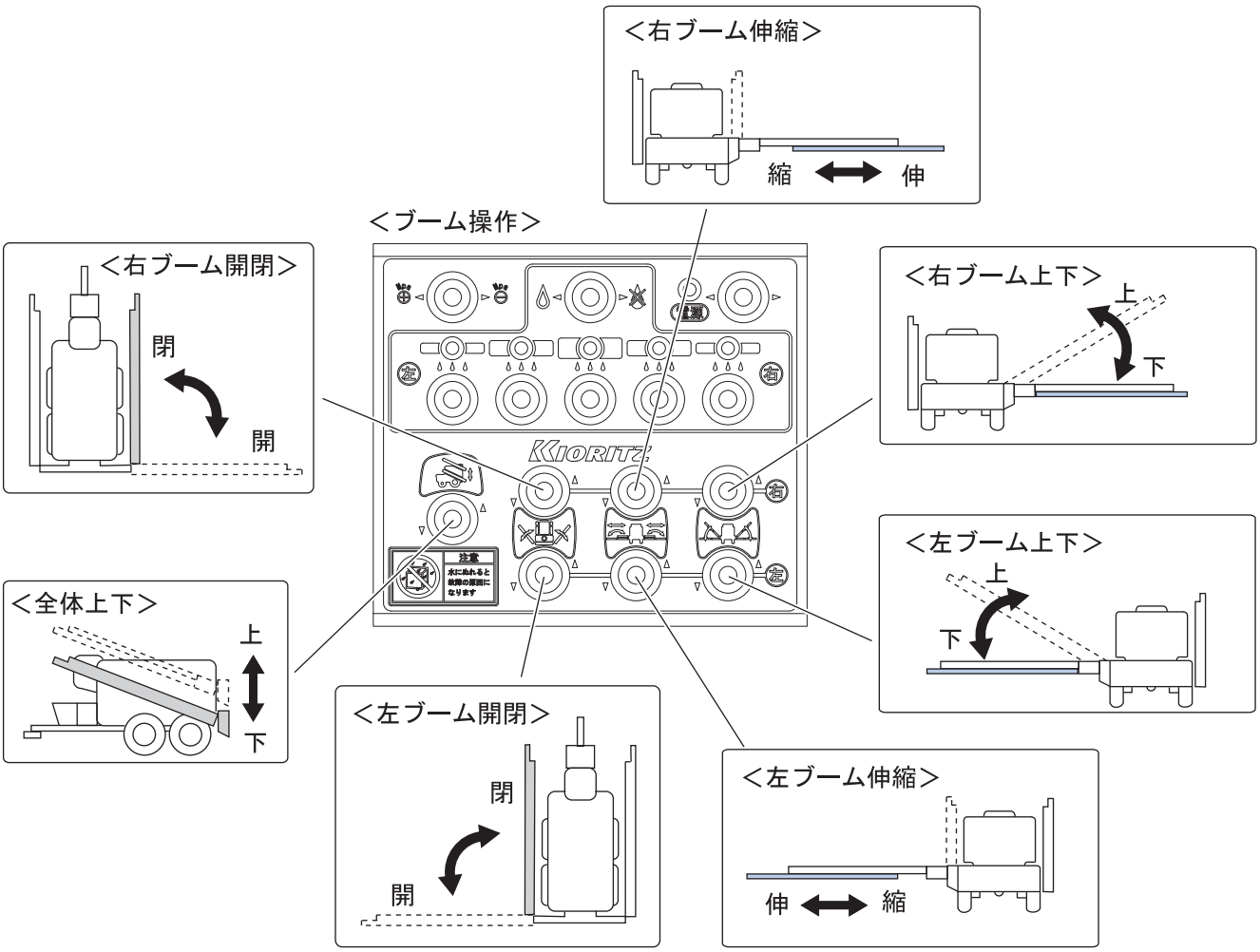
散布スイッチ（5 カ所）

散布（上）・停止（下）

4. 作業の準備

ブーム操作スイッチ

下図のように各ブームの操作をします。



4. 作業の準備

4-5. ステップ・はしごについて

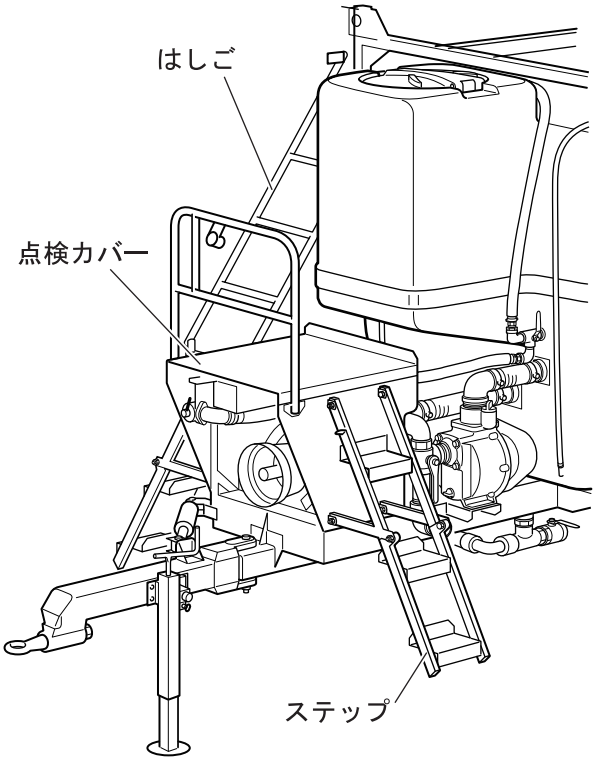
薬液タンクやタンク後方上部の点検、確認用にステップ・はしごが設置されています。上り下りには十分注意してください。

⚠ 注意

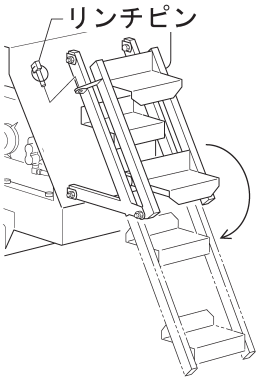
・はしごにのぼって農薬を投入しないでください。
事故の恐れがあります。

⚠ 警告

・走行中は、ステップ、はしご、点検カバーに乗らないでください。
転落の原因となります。



ステップは左右にあり、二つ折になっています。
必要に応じて開閉してください。



重要

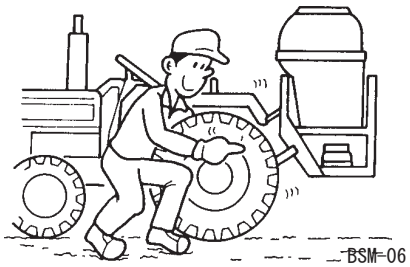
・ステップを閉じた場合は、リンチピンで固定してください。
・ステップを閉じたままで上り下りはしないでください。
・移動走行、散布作業時はステップを閉じてください
本機の破損、作物への接触の恐れがあります。

5. 散布作業

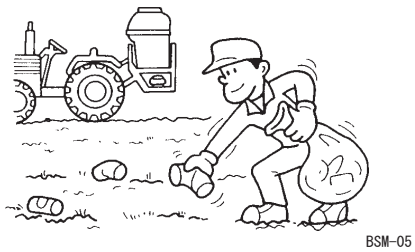
5-1. 運転前点検

⚠ 警告
・安全作業のため、32 ページの日常点検作業表を参照して、運転前に点検してください。 ・異常があるときは整備をしてください。自分でできない場合は、販売店に依頼してください。 整備不良のまま使用すると、事故や重傷を負う原因となります。

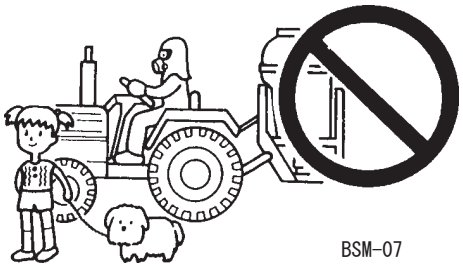
5-2. 作業前の点検



●各部品がきちんと取り付けられているか確認してください。
●各リンク部のロックがされているか確認してください。
●ホース、配線などが動く部分に干渉していないか点検してください。



●作業場所の点検を行ない、ごみ、空きカンなど作業の障害になるものを取り除いてください。



●人や動物などが近くにいないことを確認してください。

5-3. エンジン始動、燃料の取り扱い

⚠ 警告
・燃料を扱うときは、タバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

●エンジンの排気ガスには死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動させないでください。

5. 散布作業

5-4. 移動時、運転操作時の注意

⚠ 危険

・ 運転操作は必要以上の高速走行、急発進、急加速、急制動、急旋回はせず、安全運転、安全作業をしてください。

⚠ 警告

・ ほ場の出入り、溝などの横断、軟弱地の通過など、安全を常に確認してください。

⚠ 注意

・ 薬液タンクのフタは完全に閉めてください。
薬液をあびる恐れがあります。
・ ブーム操作時は周囲の障害物に注意し、安全確認の上、慎重に操作してください。

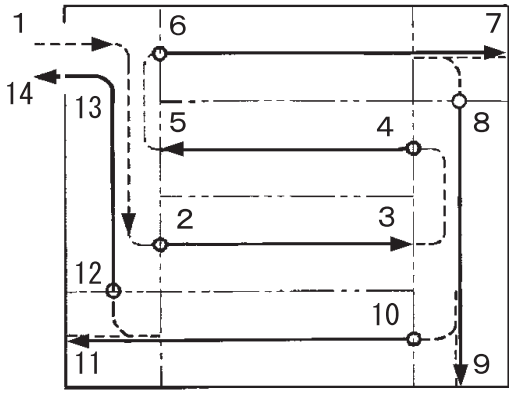
重要

・ トラクタを運転する作業者は、運転免許証を所持してください。

●薬液量は状況に合わせて調整してください。
●傾斜地は低速走行で、降坂時はエンジンブレーキでゆっくり走行してください。
●ステップ以外の場所には乗らないでください。けがをする場合があります。
●回転部には絶対にさわらないでください。けがをする恐れがあります。

5-5. 散布計画

＜散布順路例＞



図は四隅まで散布する方法です。この他に四隅の切り返しをやめて、隅の散布を省略する方法もあります（能率が良く、踏み倒しが少ない）。

●慣れない内は作業開始前に、一度圃場を見て、走行順序やターンする位置を考えてください。
●弾力性のあるポールを目印にターンすると作業がしやすくなります。
●ターン中に散布する場合は、二重散布とならないように配慮してください。
●薬液は必要量をあらかじめ計算して余らないようにしてください。

⚠ 注意

・ 圃場へは直角に進入・退出してください。斜め進入や傾斜中のターンは転倒しやすくなるため、あらかじめ進入口を整備してください。

5. 散布作業

5-6. 作業速度の計算

手動調圧の場合のカニ目 2 頭口ノズル吐出量および散布量に対する速度は、ノズル吐出量一覧表、計算式により表されます。
必要に応じてご利用されると便利です。
カニ目 2 頭口ノズル以外のノズルを使用する場合は、そのノズル吐出量一覧表を入手してください。

＜作業速度の計算式＞
作業速度Ｖ (km/h) は、下式で求まります。

$$V = \frac{60 \times G}{L \times Q}$$

Ｇ：ノズルの総吐出量 (L/min)
　［ノズル 1 個の吐出量×ノズル個数］
Ｌ：散布幅 (m)
　※ブーム伸縮により散布幅は変化します
　［0.3 m（ノズル間隔）×ノズル個数］
Ｑ：10 a 当りの散布量 (L/10 a)

＜ノズル吐出量一覧表＞
（例：カニ目 2 頭口の場合）

	圧力 (MPa)		
ノズル径 (mm)	1.0	2.0	2.5
0.6	0.98	1.33	1.47
0.7	1.20	1.61	1.78
0.8	1.38	1.87	2.05
1.0	1.83	2.48	2.74

例）カニ目 2 頭口ノズルを使用、ノズル個数 103 個、圧力 2.0 MPa とし、
　反当り (10 a) に 100 L 散布する場合の作業速度Ｖ（走行速度）の算出は
　　散布量Ｑ：100(L/10 a)
　　散布幅Ｌ：0.3 × 103 = 30.9(m)
　　ノズル総吐出量Ｇ：1.87（一覧表）× 103 頭口 = 192.6(L/min)

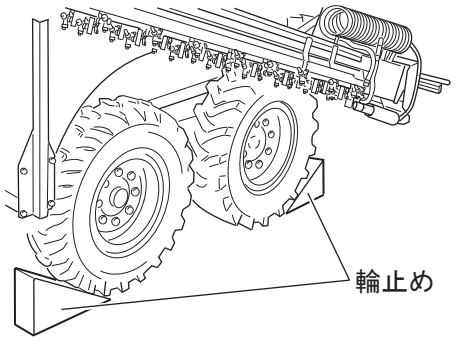
$$V = \frac{60 \times 192.6}{30.9 \times 100} = 3.74 \text{(km/h)}$$

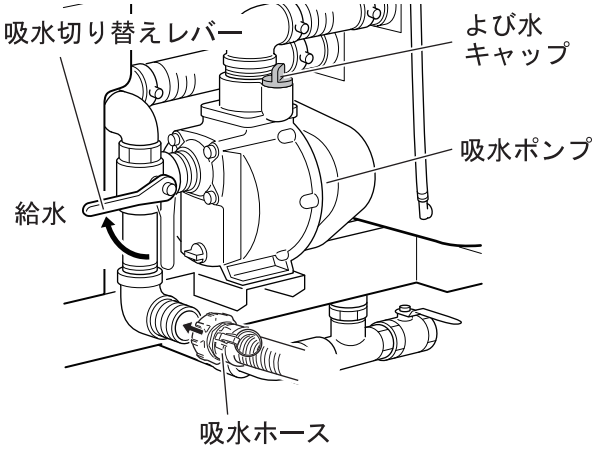
重要
・ ノズル吐出量一覧表の「圧力」とは、ノズル部の圧力で、本機の圧力測定部の圧力ではありません。

5. 散布作業

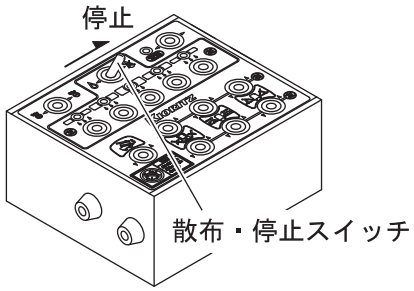
5-7. 給水の方法

⚠ 警告
・ 飲料水源、河川、湖沼から直接給水することは避け、専用の吸水栓や薬液給水用水槽から給水してください。 薬害を引き起こす原因となります。 ・ 給水作業は、水平堅土な場所を選んで行なってください。 ・ 本機が動かないように、タイヤに輪止めをしてください。



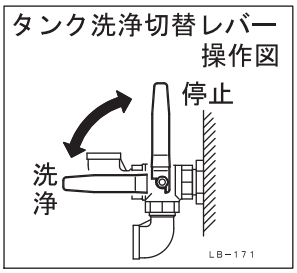


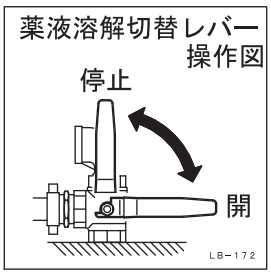
1）吸水ホースを吸水口に接続してください。
2）吸水切り替えレバーを「給水」にしてください。
3）吸水ポンプの「よび水キャップ」を外し、よび水を入れてください。満水になったらキャップを閉めてください。



4）ブーム / 散布コントローラの散布・停止スイッチを「停止」にしてください。

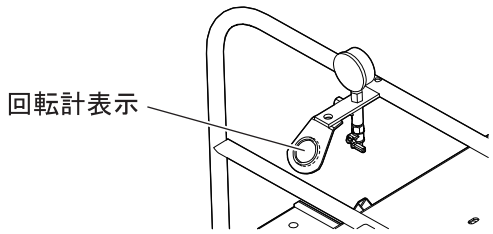
5. 散布作業





5）タンク洗浄切り替えレバーと薬液溶解レバーを「停止」にしてください。

6）トラクタの PTO を接続（回転）にしてください。給水が始まります。

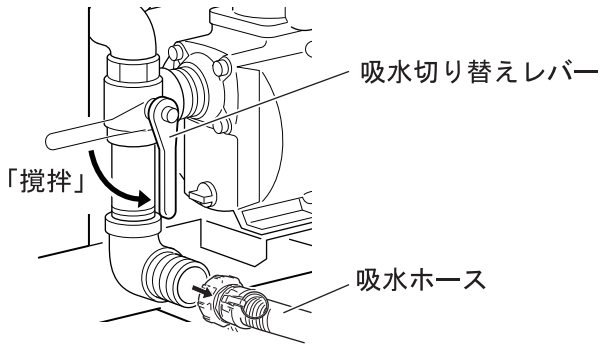


7）PTO 回転が 400 r/min（回転計表示 950 r/min）になるようにトラクタのアクセルで、エンジン回転数を調整してください。回転計表示を参考にしてください。

●正確な水位を表示するため、給水は水平堅土で行なってください
●水量は水量表示計、液量ゲージを参考にしてください。

重要
・ トラクタ PTO 回転は、400 r/min（回転計表示 950 r/min）以上にしないでください。

	PTO	回転計表示
給水	最大 400 r/min	最大 950 r/min
散布	最大 350 r/min	最大 850 r/min



8）必要水量になったら吸水切り替えコックレバーを「撹拌」にしてください。

9）トラクタの PTO を停止してください。

10）吸水ホースを外してください。

重要
・ タンク内には 4000 L 以上の薬液を入れないでください。 過負荷による本機破損の恐れがあります。

5. 散布作業

5-8. 薬剤の調合

⚠ 警告

- 農薬は残らないように調整し、必ず使い切ってください。
- 予備攪拌は、十分にしてください。散布ノズルの目詰まりや、異常な振動、薬害などの原因となります。
- 外部への漏れがないか点検をしてください。
  薬害を引き起こす原因となります。

⚠ 注意

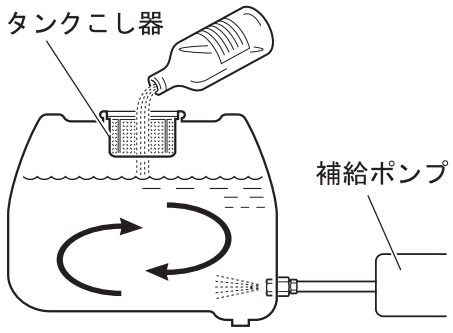
農薬を使用するときは、次のことを守ってください。

- 法令を遵守して農薬を使用する
- 農薬ラベルをよく読み、記載されている事項を確認してから農薬を使用する
- 製品ならびに農薬の知識を持たない人は、農薬を使用しない
- 農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用して、農薬に直接触れない
- 農薬が目に入らないように注意する
- 農薬の種類によっては、かぶれを生ずるときがあるので注意する
- かぶれやすい人は、使用を控える
- 農薬が目に入ったときは、すぐに水洗し、眼科医の手当てを受ける
- 誤って飲み込んだときは、吐き出し、すぐに医師の手当てを受ける
- 体に異常を感じたときは、すぐに医師の診察を受け、使用していた農薬の種類を告げる
- 防除対象作物以外への飛散がないよう環境へ配慮する
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいと洗眼をする
- 子供の手が届かない場所に保管する

薬害の恐れがあります。

重要

- タンクこし器は必ず使用し、散布終了後は、吸い込みストレーナと一緒に清掃してください。
- 粉剤などを溶かす場合には、別の容器にてあらかじめ水溶させた後に、薬液タンクに入れてください。
- 薬剤は濃度が均一になるように溶かしてください。固まりが残ると、ノズルの目詰まりの原因になります。



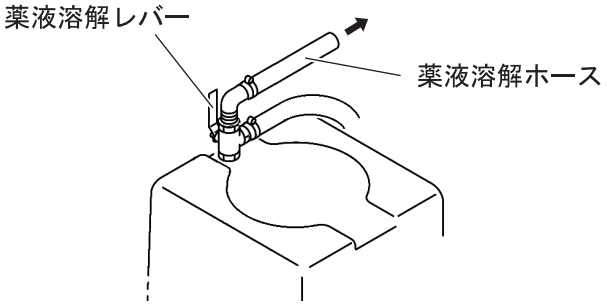
1. ブーム / 散布コントローラの散布スイッチ（5カ所）を「停止」にしてください。
2. 散布・停止スイッチを「停止」にしてください。
3. 吸水切り替えレバーが攪拌になっているか確認してください。
4. PTO 回転（回転計表示）を下記にしてください。

	PTO	回転計表示
給水	最大 400 r/min	最大 950 r/min

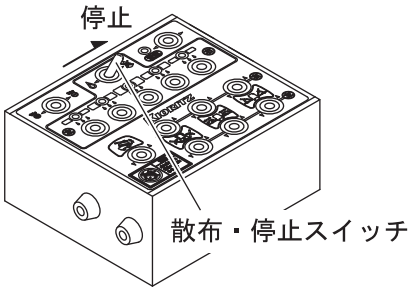
5. 薬剤を外部に漏らさないようにして、薬液タンクに入れ、薬剤を十分に攪拌してください。

5. 散布作業

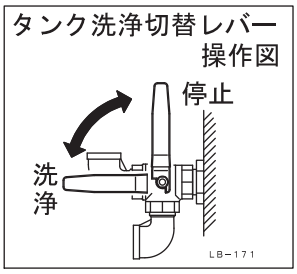
5-9. 薬液溶解レバーの操作方法



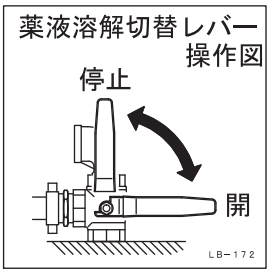
液剤や別の容器で事前に水溶させた粉剤をタンクに投入した場合、タンクこし網に薬剤が付着する場合があります。付着を取り除くには、薬液溶解レバーと薬液溶解ホースを操作してください。
薬液タンク内洗浄のため、タンクに清水が入っている場合には、タンクこし網の洗浄にも使用できます。



1）ブーム / 散布コントローラの散布・停止スイッチを「停止」にしてください。



2）タンク洗浄切り替えレバーを「停止」の位置にしてください。



3）薬液溶解レバーを「停止」側からゆっくりと、「開」側に操作すると、ホースから噴射が始まります。水量を確認しながらレバーを調整してください。

⚠ 注意
・ レバー操作は慎重に操作してください。 高圧噴射でけがをする恐れがあります。

5. 散布作業

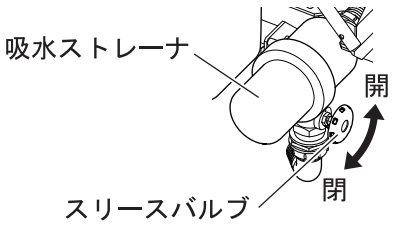
5-10. 散布作業中のストレーナ清掃

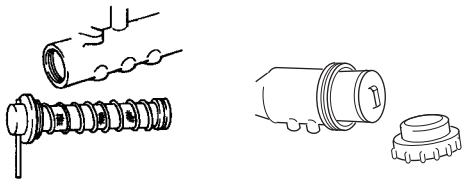
散布作業中に圧力が低下して、散布水量が極端に減少する場合があります。原因の一つとして、高圧ストレーナや吸水ストレーナの目詰まりが考えられます。

<ストレーナの清掃方法>

1) 薬液ポンプの回転を止めます。

2) 吸水ストレーナの横のスリースバルブを閉めます。





3) 高圧ストレーナと吸水ストレーナを分解して網を点検し、目詰まりがあれば清掃します。

4) 高圧ストレーナと吸水ストレーナをしっかりと組み付けます。

5) スリースバルブを開け、水漏れがないか確認します。

⚠ 注意
・ スリースバルブを閉めずに吸水ストレーナを分解すると、薬液が吹き出し薬害事故の恐れがあります。

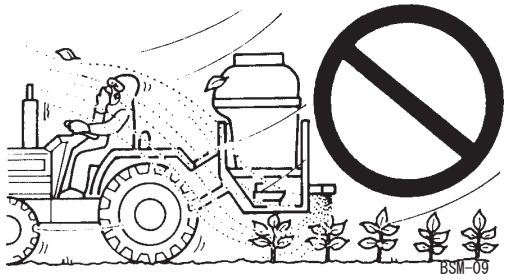
重要
・ ストレーナ清掃後は、スリースバルブを「開」にしてください。 「閉」のままポンプを回転させるとポンプが破損します。

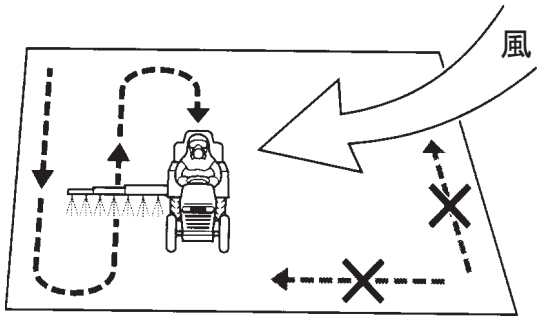
5. 散布作業

5-11. 散布作業時の注意

⚠ 警告

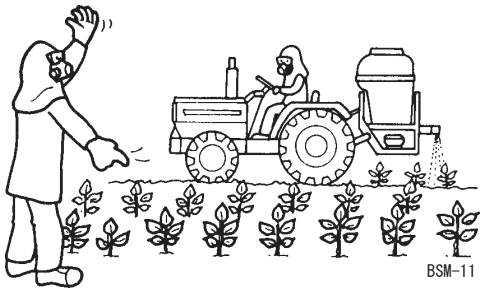
・ 風が強いときには絶対に作業をしないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ薬液が飛んでしまうことがあります。





●薬液が体にかかるのを避けるため、風下の方から作業をはじめてください。

●ブームは常に風下側にし、散布をしてください。



●防除作業を二人以上で行なう場合、合図をして安全を確認してください。

●運転中は、ノズルに近づかないでください。薬液をあびる恐れがあります。

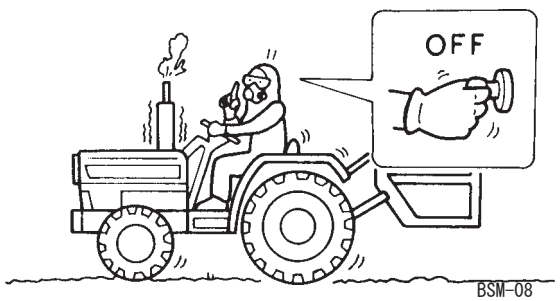
●農薬の散布はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、2 時間を限度としてください。

●散布作業をしながらタバコを吸ったり、飲食をしないでください。食べ物などに付着した農薬が体の中に入ることがあり危険です。

⚠ 警告

・ 危険を感じた場合はすぐに作業を中止してください。

・ 作業中あるいは作業終了後、からだに異常を感じたときは、すぐに医師に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

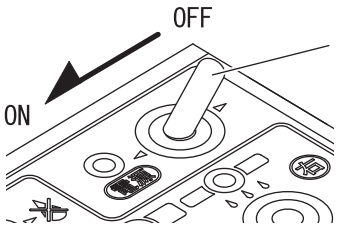




5. 散布作業

5-12. 散布作業

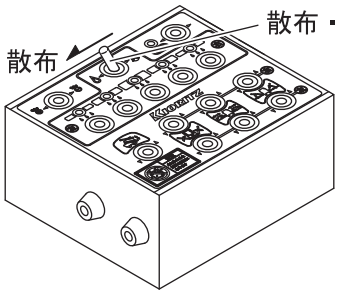
重要
・ 散布時、地形や圃場条件および安全確認をあらかじめ知るために、試し散布をしてください。



本機の散布水回路は独立しており、全面散布、部分散布のいずれも可能です。

1）ブーム / 散布コントローラの電源スイッチを入れてください。

2）ブーム操作（16 ページ）にて圃場形状に合わせ各ブームを操作（開閉、伸縮、上下）し、最適な散布状態にします。



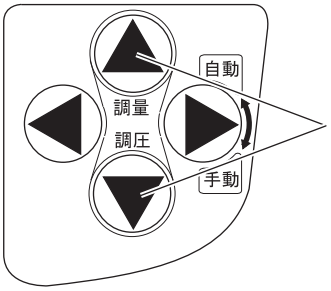
3）散布・停止スイッチを「散布」にします。

4）回転数をセットしてください。

	PTO	回転計表示
散布	300 ～ 350 r/min	750 ～ 850 r/min

重要
・ 散布時のポンプ回転数は 350 r/min 以上にしないでください。 本機破損の恐れがあります。

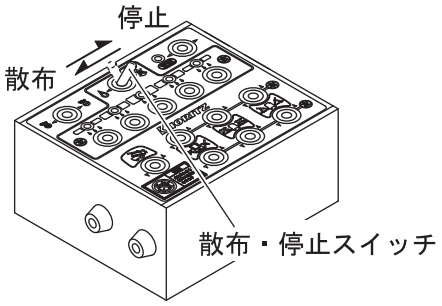
5. 散布作業



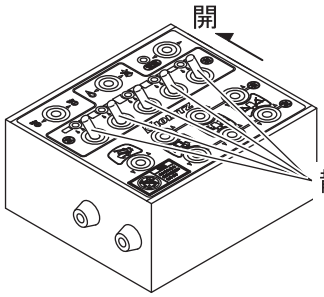
5）SNU5 コントローラの圧力の数値を見ながら所定の圧力になるように調整してください。

※調圧方法は別冊「SNU5 取扱説明書」をご覧ください。

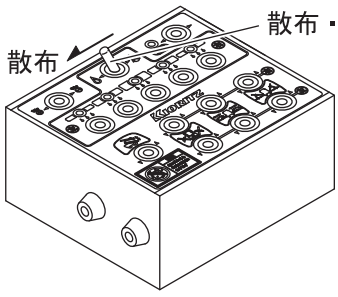
重要
・ 3.0 MPa(30 kgf/cm^2) 以下で使用してください。 配管を損傷する恐れがあります。 ・ 全面散布から部分散布にした場合、一時的に 3.0 MPa(30 kgf/cm^2) 以上になることがあります。一度 2.0 MPa(20 kgf/cm^2) に減圧し、再度調圧してから散布してください。



6）散布・停止スイッチで「散布」「停止」操作し、圧力の変動がないかを確認し、「停止」にしてください。



7）散布スイッチ（5 カ所）を「開」にしてください。

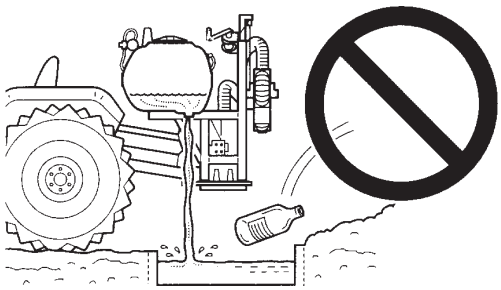


8）散布・停止スイッチを「散布」にして、散布を開始してください。

作業終了後、ブーム／散布コントローラ電源スイッチを OFF にしてください。

5. 散布作業

5-13. 作業後の注意



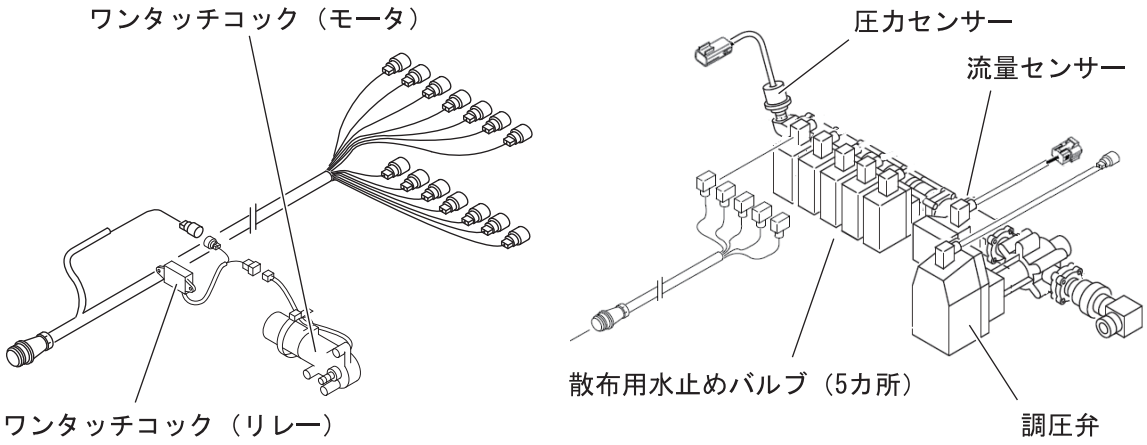
- 残った農薬は、川、下水道などに流さないでください。
- 農薬の空き容器はきれいに洗い、適切な方法で処理してください。
- 農薬、器具の後かたづけが終わったら、うがいをし、手、顔など外部にさらされた場所を石けんで良く洗い、入浴をして全身を良く洗ってください。
- 作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。
- 農薬散布の後は飲酒をひかえてください。農薬を吸引していた場合、体内の酵素の働きが低下します。このようなときにアルコールを飲むと、さらに酵素の働きが低下して疲労の回復が遅くなります。

6. 作業終了後

6-1. 清掃

重要

・ 電子部品（散水用水止めバルブ、調圧弁、ワンタッチコックおよびセンサ部等）を高圧水にて洗浄しないでください。故障の原因となります。



・ 散布終了後は必ず清水で運転し、ノズルをきれいに洗ってください。ノズルの目詰まりの原因となります。
・ ストレーナに目詰まりが多くなると、薬液ポンプの能力が落ちて、異常振動や圧力低下の原因となります。
・ ストレーナに異物が詰まったまま使用すると薬液ポンプを破損することがあります。

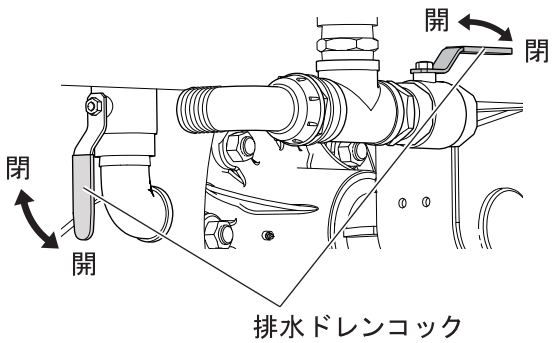
散布作業が終わったら、必ず清掃してください。

●薬剤で汚れている部分は、清水できれいに洗浄してください。

●薬液タンクに清水を給水します。トラクタのPTOを入れて低速回転にし、散布作業27ページに従ってノズルから散布させます。残液が排出されるまで洗浄を続けてください。

●タンクこし器、吸水ストレーナ、高圧ストレーナを清水で洗浄してください。薬剤の粗粒が詰まっていることがあります。

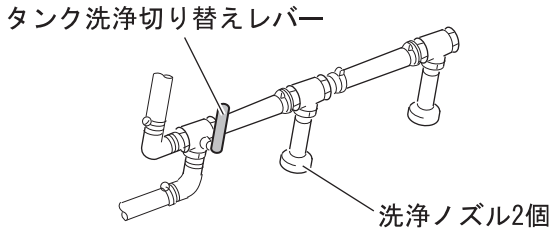
●薬液タンクの排水ドレンコック(2カ所)を開け、残液を排出してください。



排水ドレンコック

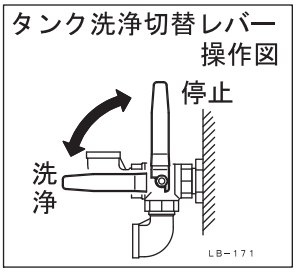
6. 作業終了後

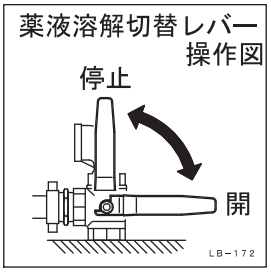
6-2. 薬液タンク内の洗浄方法



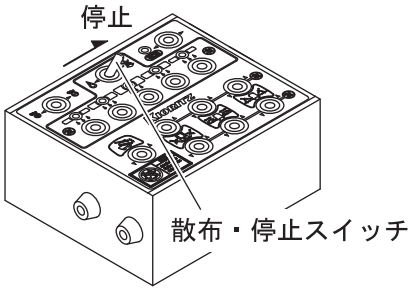
本機にはタンク内を洗浄するノズルが装着されています。(洗浄ノズルは水圧で回転し半径 2 ｍの範囲へ球状シャワーのように噴射します。ノズル 1 ヶ当たり 80 L/min)
以下の手順で洗浄します。

1) 給水の手順（21 ページ）で薬液タンクに 1000 L 清水を入れます。





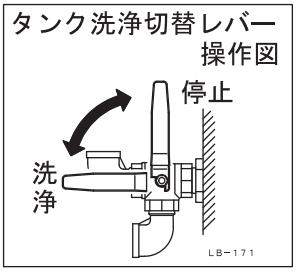
2) 薬液溶解切り替えレバーおよびタンク洗浄切り替えレバーを「停止」にしてください。



3) ブーム / 散布コントローラの散布・停止スイッチを「停止」にしてください。

4) PTO を入れて、回転数をセットしてください。

	PTO	回転計表示
散布	300 r/min	750 r/min



5) 薬液タンクフタが閉まっていることを確認し、タンク洗浄切り替えレバーを「洗浄」にしてください。洗浄ノズルから清水が噴射され、洗浄が開始されます。

※薬液タンクフタを開けたまま洗浄すると洗浄水がタンクの外へ噴き出します。

⚠ 警告

・ 洗浄液は外部に廃棄しないでください。
薬害事故や環境汚染の原因となります。

7. 点検整備・保管

7-1. 日常点検・定期点検

ご使用者の皆さまが、この製品の性能を十分に発揮し、安全な作業をしていただけるように、日常の点検を次のようにまとめましたのでご活用ください。
なお点検作業の際は、一部の作業を除き必ずエンジンを停止してください。

⚠ 警告

・ケンインヒッチ、ケンインカン、トラニオン、タイヤなどに異常がある場合、直ちに運転を中止して販売店に整備を依頼してください。
事故の原因となります。

日常点検作業表

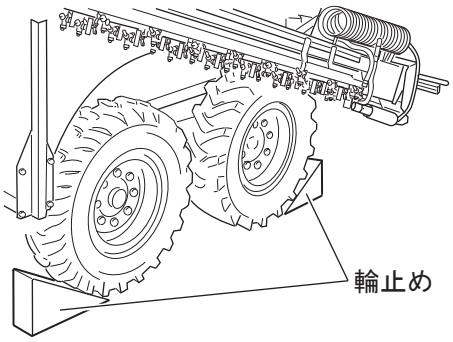
	点検箇所	点検作業			概要
		運転前	運転中	運転後	
油脂類	オイルの量	○			規定量があるか調べる
	オイルの漏れ	○			結合部など漏れを生じやすい所の確認
	グリースニップル	○		○	必要箇所にグリースを補給
走行系統	タイアの空気圧	○			前後タイヤとも規定の圧力であるかを確認
	タイヤの亀裂、損傷	○			亀裂、損傷などがないかを確認
	リム、ハブ	○			ボルト、ナットの脱落、ゆるみや変形がないかを確認
散布系統	各部の水漏れ	○		○	散布用配管より水漏れがないかを確認
	散布コック類	○		○	作動が確実か確認
	薬液タンクふた	○	○		漏れの有無を確認し締め付け確認
	散布系薬液排水箇所	○		○	漏れの有無を確認
	薬液ポンプ	○		○	オイルがレベルまで入っているか確認
	吸い込みストレーナ	○			清掃確認
	ブーム操作	○			ブームの昇降、開閉および傾斜の作動が左右とも異常がないか確認
	ノズルの締め付け	○			詰まり清掃および締め付け確認
電気系統	コンビネーションランプ、車幅灯、後退灯	○			点灯具合が良好で、かつ汚れおよび損傷がないこと
その他	前日の運行において異常を認められた箇所	○	○		異常を認めた箇所が完全に修理されているかを確認
	洗車			○	洗車後、要所に給油
	各カバー	○			異常を認めた箇所が完全に修理されているかを確認

定期点検・調整について
定期点検や整備を農閑期にすると、農繁期には車両の性能が十分発揮され、安全で快適な作業ができます。車両の整備不良による事故などを未然に防止するために、1シーズン毎に整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に油圧ホースなどのゴムホース類や電気配線は2年毎に交換して、常に車両を最良の状態で安心して作業ができるようにしてください。

7. 点検整備・保管

⚠ 危険
・ 点検整備は、必ずトラクタのエンジンを停止し、本機が動かないようにタイヤに輪止めをしてください。

重要
・ この製品の取扱説明書とトラクタなどの説明書に従って、点検・整備をしてください。



●指定以外の部品を使用したり、製品を改造しないでください。

●各部のボルト、ナットおよびホースのゆるみ、液洩れ等を点検してください。

●配線コードが外れていないか、被覆がむけていないか点検してください。

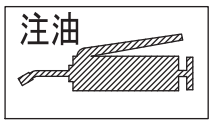
●所定の点検時間毎に指定オイルを給油してください。その他の各摺動部、回転部には適時オイラーにて給油してください。

点検箇所	補給品	点検補給時間	交換時間	指定量
薬液ポンプ	SAE10W-40	毎回点検	500 時間毎 (初期 50 時間)	8 L
薬液ポンプ	ダイヤフラム		500 時間毎	8 枚
増速機	ギヤオイル #90		150 時間毎	0.6 L
ユニバーサルジョイント	グリス	50 時間毎	使用都度	適量
各支点部	グリス	適時		適量
作動油タンク	タービン油	50 時間毎	シーズン毎	8 L

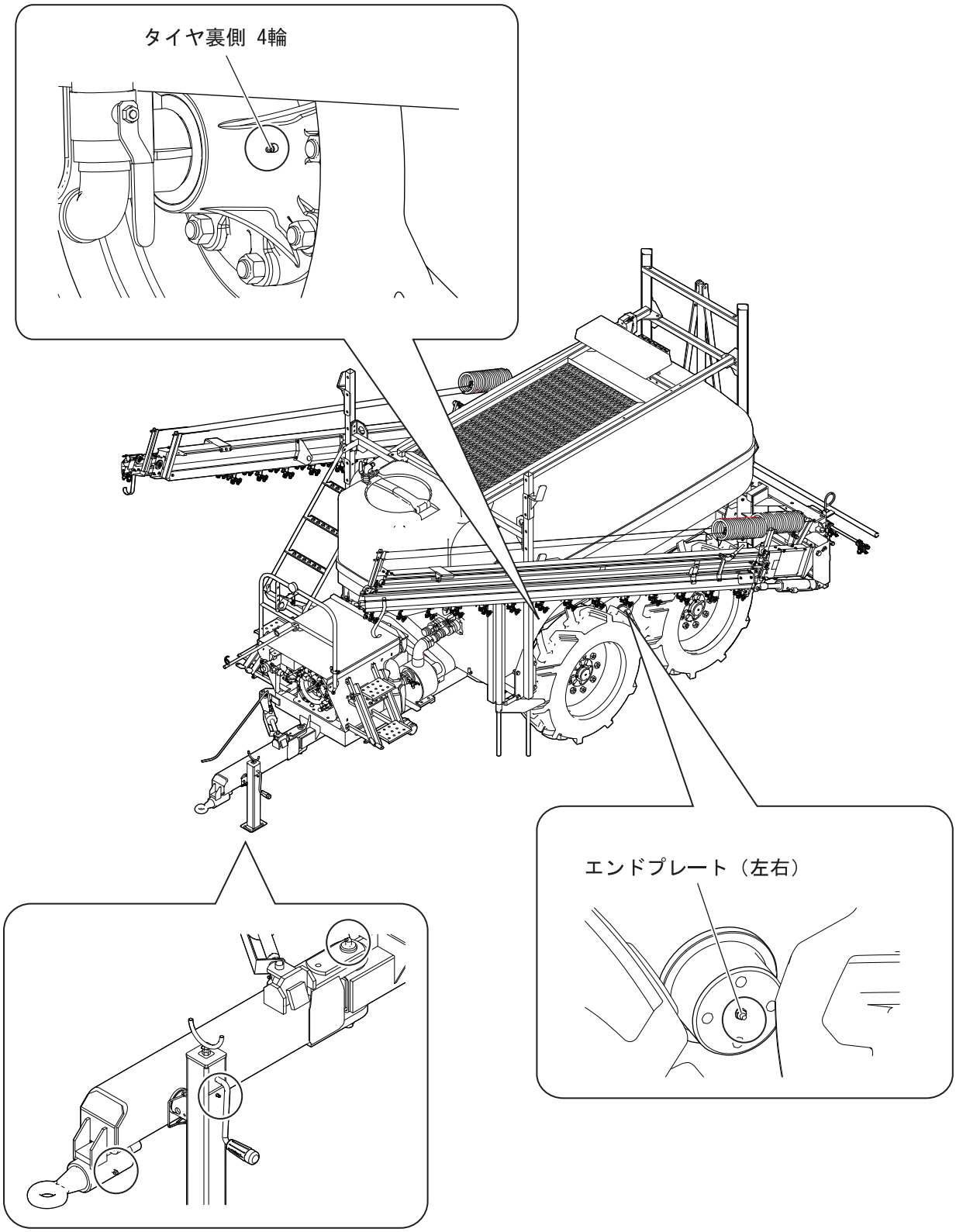
7. 点検整備・保管

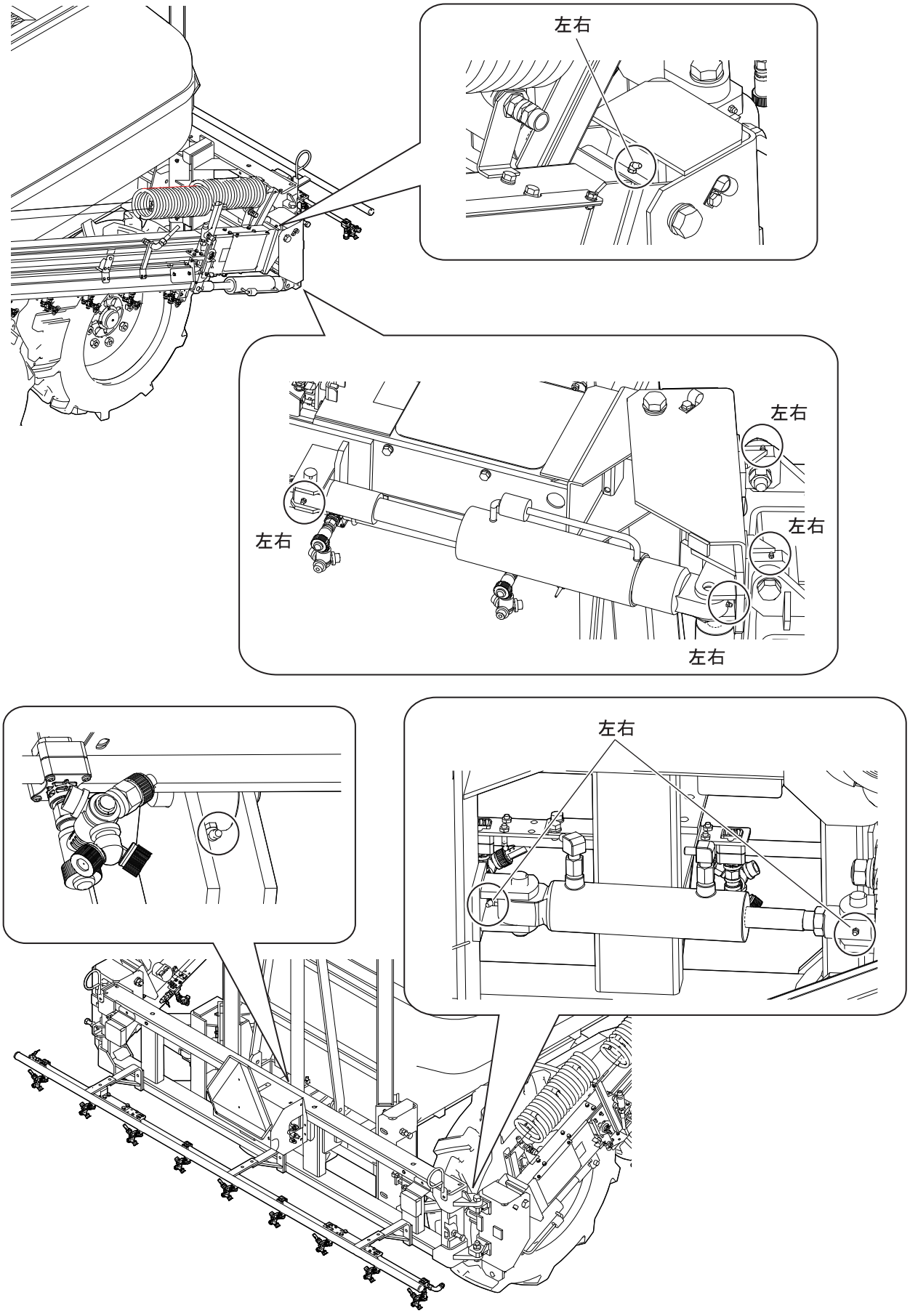
7-2. グリスアップ一覧

注 油



グリスを注入する部位は、左図のラベルが貼り付けてあります。
一部、ラベルの無い箇所もあります。
図示してある箇所を参考に注油してください。
注油にはグリスガン等を利用してください。




左右
左右
左右
左右
左右
左右

7. 点検整備・保管

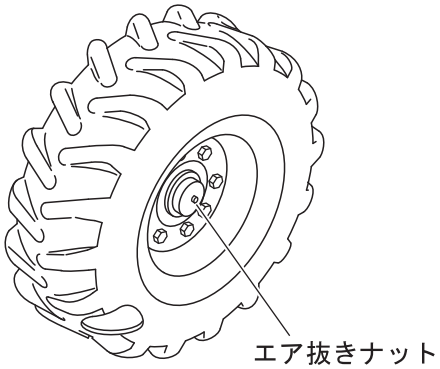
7-3. トラニオンへのグリスアップ



●グリスアップはエンドプレートからグリスが溢れるまで入れてください。

7-4. タイヤハブへのグリスアップ

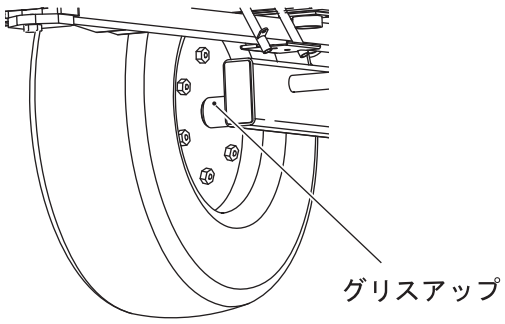
重要
・ エア抜きナットを緩めず、グリスアップするとオイルシールを破損します。



タイヤハブへのグリスアップ方法

●タイヤハブ側面にあるエア抜きナットを緩めます。

●グリスアップ時に緩めたナット部分からエアが漏れていることを確認してください。

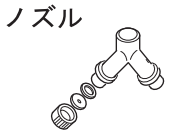


●タイヤ裏面にあるグリスニップルよりグリスを適量、注油してください。

●グリスを注油したらタイヤハブ側面にあるエア抜きナットを固く締めてください。

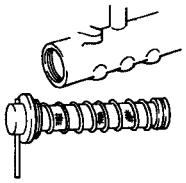
7. 点検整備・保管

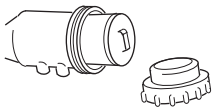
7-5. ノズルの点検



作業後は噴口の詰まりや摩耗がないか常に注意して点検してください。本機に使用されている噴板はセラミックを素材とした耐性の高いものですが、摩耗により噴霧の粒子が粗くなりましたら、新しいものと交換してください。
摩耗した噴板を使用すると、吐出量が基準よりも増加し、薬液ポンプの圧力が低下するため、防除効果の低下や薬剤のむだになります。

7-6. 吸水・高圧ストレーナの点検

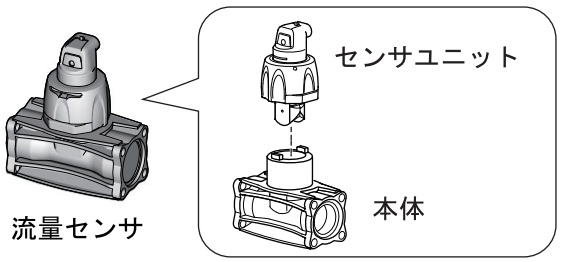

高圧ストレーナ


吸水ストレーナ

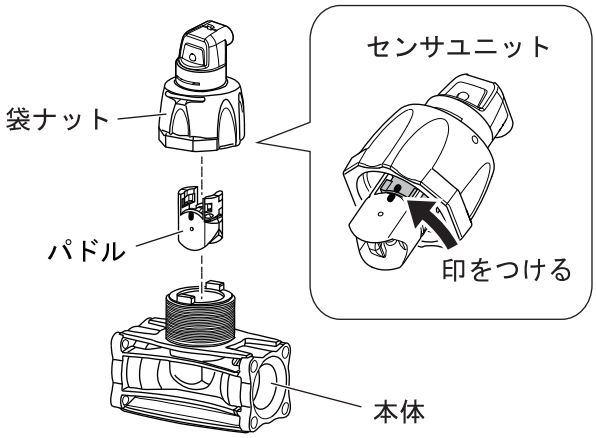
各ストレーナに目詰まり等がないかどうかを点検してください。ストレーナに異物が詰まると薬液ポンプの能力が落ちて、圧力低下や異常振動の原因となることがあります。
十分に清掃することで良好な噴霧を得ることができます。

重要
・ ストレーナに異物が詰まったまま使用すると薬液ポンプを破損することがあります。

7-7. 流量センサの点検



作業終了時は、配管内に清水を通してください。
散布量やタンク残量がずれるようになったときは、流量センサのパドルを清掃してください。



＜パドルの清掃方法＞
1）袋ナットを反時計周りに回して、センサユニットを本体より外します。
2）パドルを反時計回りに回して、センサユニットから外します。取り外す際は、取付方向が逆にならないように、印をつけます。
3）パドルを洗浄液に 1 ～ 2 時間浸します。
4）パドルを流水で洗います。
5）パドルをセンサユニットに取り付けます。
6）センサユニットを本体に取り付けます。

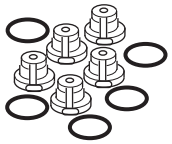
重要
・ パドルの取付方向が分からなくなった場合またはパドルを交換した際は、センサの再校正が必要となりますので、販売店にご連絡ください。 散布量のずれやタンク残量表示のずれにつながります。

7. 点検整備・保管

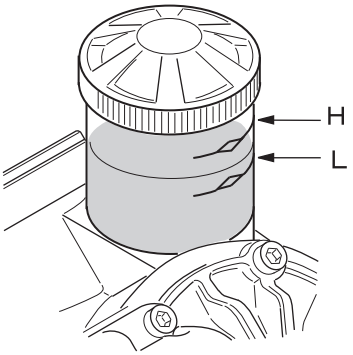
7-8. 薬液ポンプの点検



ダイヤフラム



吸排弁



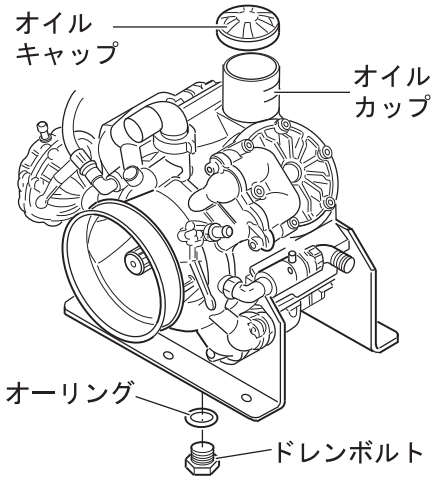
薬液ポンプはダイヤフラム方式です。

●「ダイヤフラム（特殊ゴム）」は 500 時間で交換してください。
薬液ポンプの音が大きくなった場合は、「吸排弁」の摩耗も考えられますので、「ダイヤフラム」と一緒に交換してください。
「ダイヤフラム」と「吸排弁」は消耗品です。

●薬液ポンプは 2 個のオイルカップが装着されています。始動時にオイルカップのオイルレベルが［H］と［L］の間にあるか確認してください。オイルレベルが低い時には、オイルを規定量まで補充してください。（オイル：SAE10W-40）

重要
・ オイルレベルが異常に高い（低い）ときや、白濁しているときは、ダイヤフラムの破損が考えられます。使用せずに、販売店にご連絡ください。

7-9. 薬液ポンプのオイル交換



＜準備＞

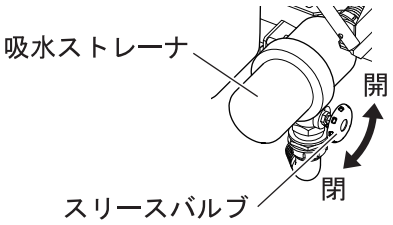
1）薬液タンクに約 100 L 水を入れ、吸水ストレーナのスリースバルブを閉めます。

2）オイル（SAE10W-40）8 L（4 L × 2 台分）と、廃油収納容器を用意します。

＜オイルの抜き取り方法＞

1）オイルキャップを外します。

2）ポンプ真下のドレンボルトを外して、廃油を用意した容器に収納します。

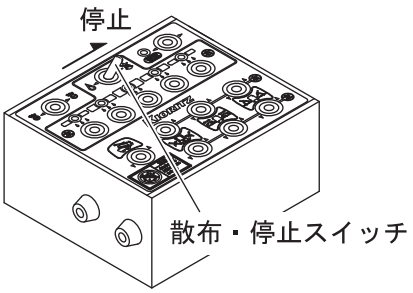


＜オイルの注入方法＞

1）ドレンボルトをしっかり取り付けます。

2）オイルカップの規定レベルまでオイルを注入します。

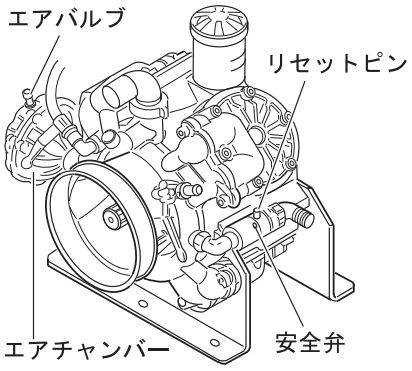
3）吸水ストレーナのスリースバルブを反時計回りに回して開きます。



4）ブーム / 散布コントローラの散布・停止スイッチを「停止」にし、薬液ポンプを低速で約 5 分間回転させ、再度オイルレベルを確認します。規定レベル以下の場合はオイルを補充します。

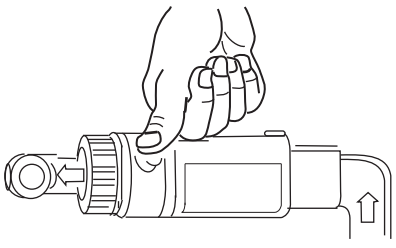
重要
・ オイル交換直後は、オイルレベルが下がることがあります。これはクランクケース内のエアが抜けることによるものです。規定レベルまでオイルを補充してください。 ・ 薬液ポンプを回転させる際は、スリースバルブを「開」にしてください。「閉」のまま回転させるとポンプが破損します。

7-10. 薬液ポンプの安全弁とエアチャンバーについて



薬液チャンバーには「安全弁」と「エアチャンバー」が装着されています。

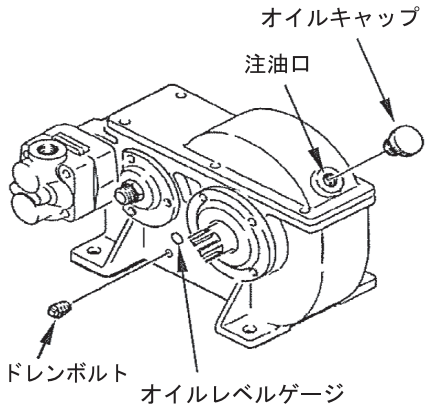
●「エアチャンバー」はポンプの脈動を軽減します。チャンバー内の空気圧が低下すると、脈動が発生する可能性があります。「エアバルブ」からエアを 0.3 ～ 0.4 MPa(3 ～ 4 kgf/cm^2) 注入してください。



●「安全弁」は予期しない圧力 (5.0 MPa 以上) が発生した場合に、水を外部に吐出してポンプを保護します。「安全弁」が作動した場合は「リセットピン」が飛び出しますので、押して復帰 (吐出を停止) してください。

7. 点検整備・保管

7-11. 増速機のオイル交換



＜準備＞
ギヤオイル (#90)0.6 L を用意します。

＜オイルの抜き取り方法＞
1) オイルキャップを外します。
2) 増速機の横のドレンボルトを外します。

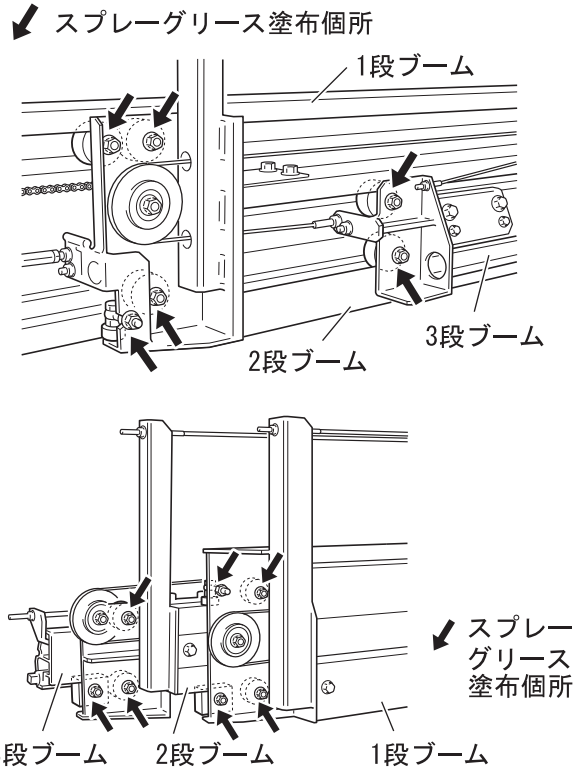
＜オイルの注入方法＞
1) ドレンボルトをしっかり取り付けます。
2) 注油口からギヤオイル (#90) を入れます。
3) オイルレベルゲージでオイル量を確認します。
4) オイルキャップを取り付けます。

7-12. タイヤの点検



	標準タイヤ
タイヤ径	10.0-20-10PLY
点検時期	運転前
空気圧	480 kPa

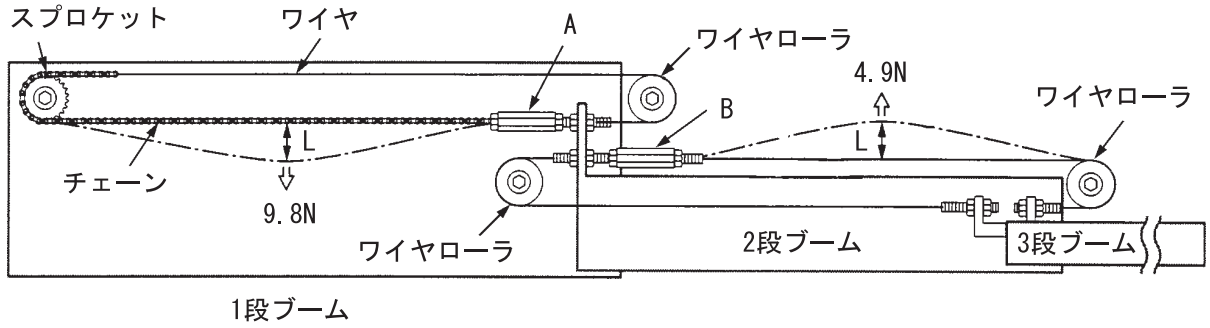
7-13. スライドブームの点検



- 薬液タンク内の水を抜いてから点検します。
- ブームがスムーズに伸縮するためと、各ローラの寿命を永くするために、軸部にスプレーグリースなどを少量塗布します。
- 塗布後１～２度ブームを伸縮作動させるとより効果的です。
- 各散布ノズルの点検・清掃をします。

7. 点検整備・保管

● シーズン毎にチェーン、ワイヤの張りを点検・調整をします。

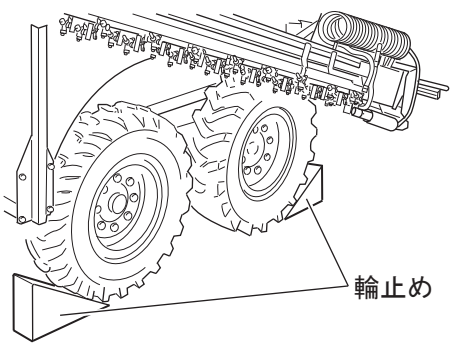


● 全てのブームを最大まで伸した状態で行ないます。
● 張り程度はL ＝ 20 ㎜程度が適正です。
● 緩い場合は、AおよびBの各ターンバックルで調整します。

⚠ 注意
・ チェーン、ワイヤが緩い、たるんだ状態で使用しないでください。 ・ チェーン、ワイヤが外れる場合があり、事故やけがを負う恐れがあります。

7-14. 日常保管

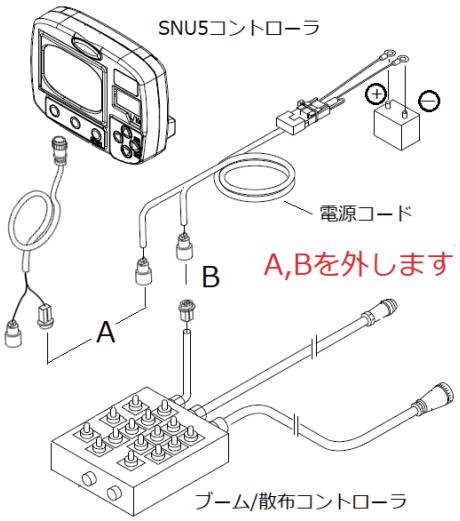
重要
・ さびの発生を防止するため、塩分の強い貯蔵庫や肥料と同じ場所への格納は避けてください。



●屋内に格納してください。
●ブーム / 散布コントローラは水のかからない場所に保管してください。
●保管中に本機が動き出すのを防止するため、タイヤに輪止めをしてください。

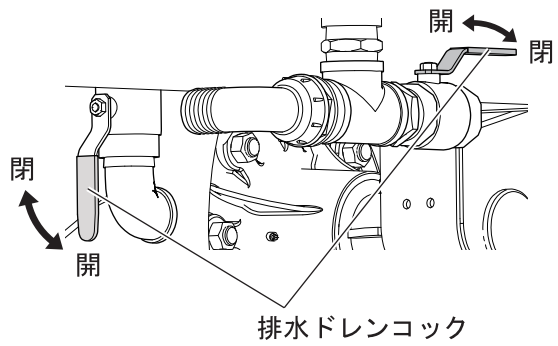
8. 長期保管

⚠ 危険
・ タンク内に子供や動物が入り込むことがないようにしてください。



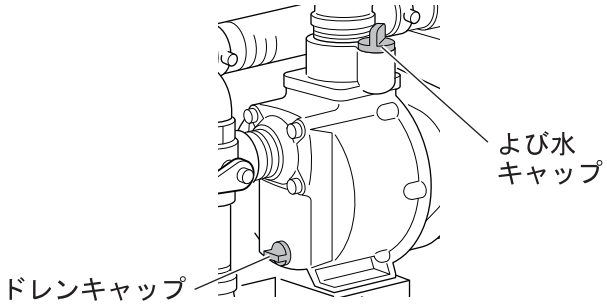
- 清掃してください。(30 ページ参照)
- 薬液タンクフタ、薬液タンクドレンのフタは開けておいてください。
- 金属部分は油をしみこませた布で軽く表面を拭きます。
- 水抜きを完全に行なってください。
- 数日間よく乾かします。
- 風通しが良く、湿気の少ない場所にシートなどを掛けて保管してください。
- ブーム / 散布コントローラ、SNU5 コントローラを電源コードから外してください。
- A, B のコネクタを外してください。
- 必要な部品等がある場合には、販売店に注文してください。

8-1. 水抜き



排水ドレンコック

1) 清水で薬液タンク内、ノズル、各ストレーナを洗浄運転してください。全ノズルから噴霧させ、薬液を十分に洗い流してください、
2) 排水ドレンコック（2 カ所）を「開」にして、薬液タンクの残液を抜いてください。



3) 給水ポンプの「よび水キャップ」と「ドレンキャップ」を外して、残液を抜いてください。
4) 左右のスライドブームを最伸にしてください。
5) 低圧・低回転にて、薬液ポンプを約 1 分間空運転して、ブームから残液を散布し、薬液ポンプ内の残液を抜いてください。

重要
・ ポンプの空運転はしないでください。 ・ 凍結の恐れがある地域では、「水抜き」と「凍結防止」をしてください。

8. 長期保管

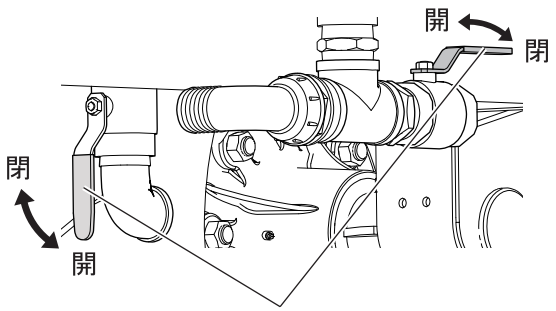
8-2. 不凍液による凍結防止

⚠ 警告

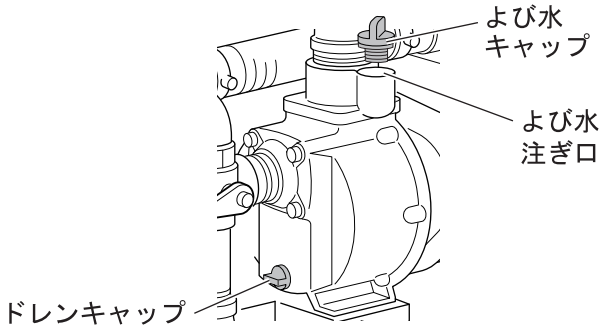
・ 凍結防止に使用した不凍液は、不凍液の説明書を参照して回収してください。
環境汚染の原因となります。

重要

・ 使用方法を誤ると凍結によって思わぬトラブルが発生することがあります。
・ 凍結による破損は、保証の対象外となります。
・ 不凍液を入れるまえに配管内の水抜きをしてください。残液が残った状態で不凍液を投入すると、不凍液が薄まり十分な効果が得られない場合があります。
・ 不凍液の濃度は、不凍液の説明書に従い予想される最低気温より低い温度で設定してください。

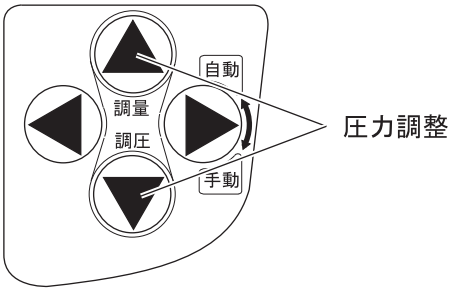


排水ドレンコック



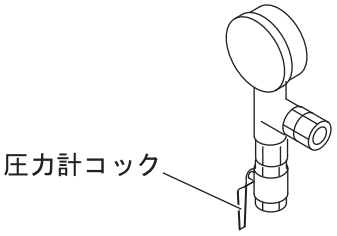
寒冷時に保管するときは、凍結による破損を防ぐため、各部の水を完全に抜いてください。
不凍液はやまびこ指定の不凍液「アンチフリーズ」を推奨いたします。(51 ページの「補用品と消耗品」を参照)

1) 不凍液を 60 L 程度用意します。
2) 薬液タンクの排水ドレンコック (2 カ所) を「閉」にしてください。
3) 吸水ポンプの「ドレンキャップ」を取り付けます。
4) 吸水ポンプの「よび水注ぎ口」から不凍液を 2 L 入れ、「よび水キャップ」を取り付けます。
5) 残りの不凍液を薬液タンクに入れます。
6) コントローラの散布・停止スイッチを「停止」にして、トラクタの PTO を接続 (回転) してください。
7) 薬液ポンプの回転数が PTO 300 r/min (回転計表示 750 r/min) になるようにエンジン回転を調整し、約 3 分間程度不凍液を循環させてください。このとき、タンク洗浄コックを 10 秒間程度開いて洗浄ノズルにも不凍液を循環させてください。
8) ブームを全部伸ばしてください。
9) コントローラの散布・停止スイッチを「散布」にして、SNU5 コントローラで圧力を調整し、0.5 MPa 程度の圧力で散布してください。不凍液が全てのノズルから出ていることを確認してください。
10) ブームを縮めてください。
11) 各コック、ストレーナ部分を開放し、不凍液が循環していることを確認してください。

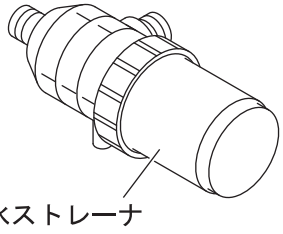


8. 長期保管

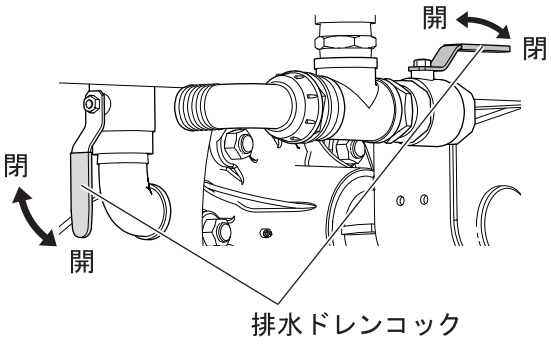
12）下記、部位の残液を抜いてください。



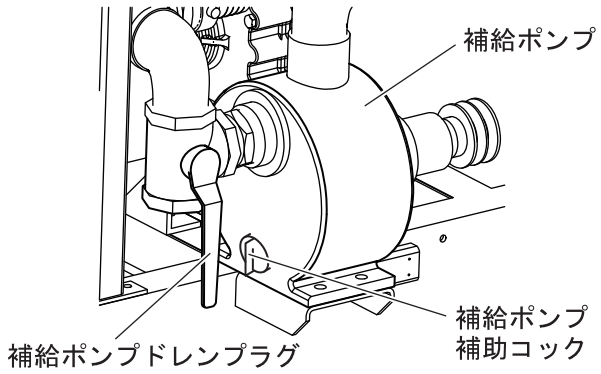
圧力計コック
圧力計下部のコックを開く



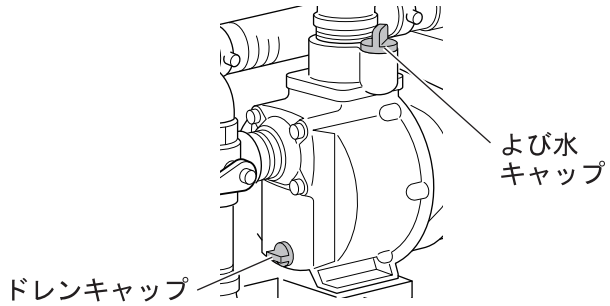
吸水ストレーナ
吸水ストレーナを外す



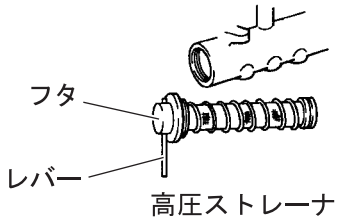
排水ドレンコック（2 カ所）
排水ドレンコックを「開」にして、薬液タンクの残液を抜いてください。



補給ポンプ
1）補給ポンプ補助コックを開く
2）補給ポンプドレンプラグを開く



3）給水ポンプのよび水キャップとドレンキャップを外して、残液を抜く



高圧ストレーナ
高圧ストレーナのレバーを回してフタを外す

9. 故障診断表

●点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分で点検・整備や故障対策ができない場合や、表中に記載されていない故障のときは、むやみに製品を分解しないで、お買い求めの販売店にご相談ください。
●販売店にご相談するときは製品の状況と合わせて「型式名」・「製造番号」をお知らせください。
●補用品や消耗品は、必ず純正部品または指定品を使用してください。他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると、故障の原因となる場合があります。
●製品や部品を廃棄するときは、販売店にご相談するか、自治体の指導に従ってください。

不調の状況	原因（点検箇所）	処理
吸水しない、または途中から吸水しなくなった	1. 吸水ホースが破損しているか折れ曲っている	破損していたら新品と交換する 折れ曲りの場合は、伸ばす
	2. 吸水ホースと吸配管との締め付け不良、またはパッキン脱落	パッキンが入っていることを確認し、十分に締めなおす
	3. 吸水ストレーナが液面から浮上がっている	浮上がらないように固定する
	4. 吸水ストレーナ周囲にごみ付着	ごみを取り除き、清水にて洗浄する
	5. 吸・排水弁に砂、ごみ付着	清水にて洗浄する
	6. 吸・排水弁の摩耗	新品と交換する
	7. 吸水弁の固着	弁と弁座の合せ面を洗浄する
	8. 吸水配管締め付けボルトのゆるみ	ボルトを交互に増し締めする
	9. 吸水弁が閉まっていまる	吸水弁を開く
余水から気泡が出る	1. 吸水ホースの取り付けのゆるみ	パッキン確認後、十分に締め直す
	2. 吸水用パッキンの摩耗、損傷	新品と交換する
	3. 吸水ホースに穴あき	新品と交換する
	4. 吸水配管の締め付け不良	増し締めする
圧力計の針の振れが大きい	1. 吸・排水弁の作動不良	分解して掃除する
	2. 吸・排水管の締め付け不良	増し締めする
	3. 吸水ストレーナの目詰まり	清水にて良く洗い落とす
圧力表示「0」にならない	1. 残圧が発生している	残圧を抜く
	2. “０点調整”がズレている	リセットボタンを押す
圧力調整したのち噴霧を始めると圧力低下が激しい	1. 下記のいずれかが原因で、余水量が吸水量の 10% 以下 a）ポンプ回転数の不足 b）ノズル噴口の摩耗で噴霧量が多い c）噴口数が多すぎる	 a）回転数を上げる b）新品と交換する c）噴口数を減らす
異常な音がする	1. オイルの不足	オイルを補充する
	2. 空気を吸い込んでいる	点検、修理する
	3. 連接棒締め付けボルトのゆるみ	増し締めする
	4. ベアリング破損	新品と交換する
	5. ポンプ回転数が高すぎる	正常回転に直す
	6. 吸水ストレーナの目詰まり	清水にて良く洗い落とす
	7. 吸水弁が閉まっていまる	吸水弁を開く
オイルカップのオイル白濁	1. ダイヤフラムの破損	新品と交換する

9. 故障診断表

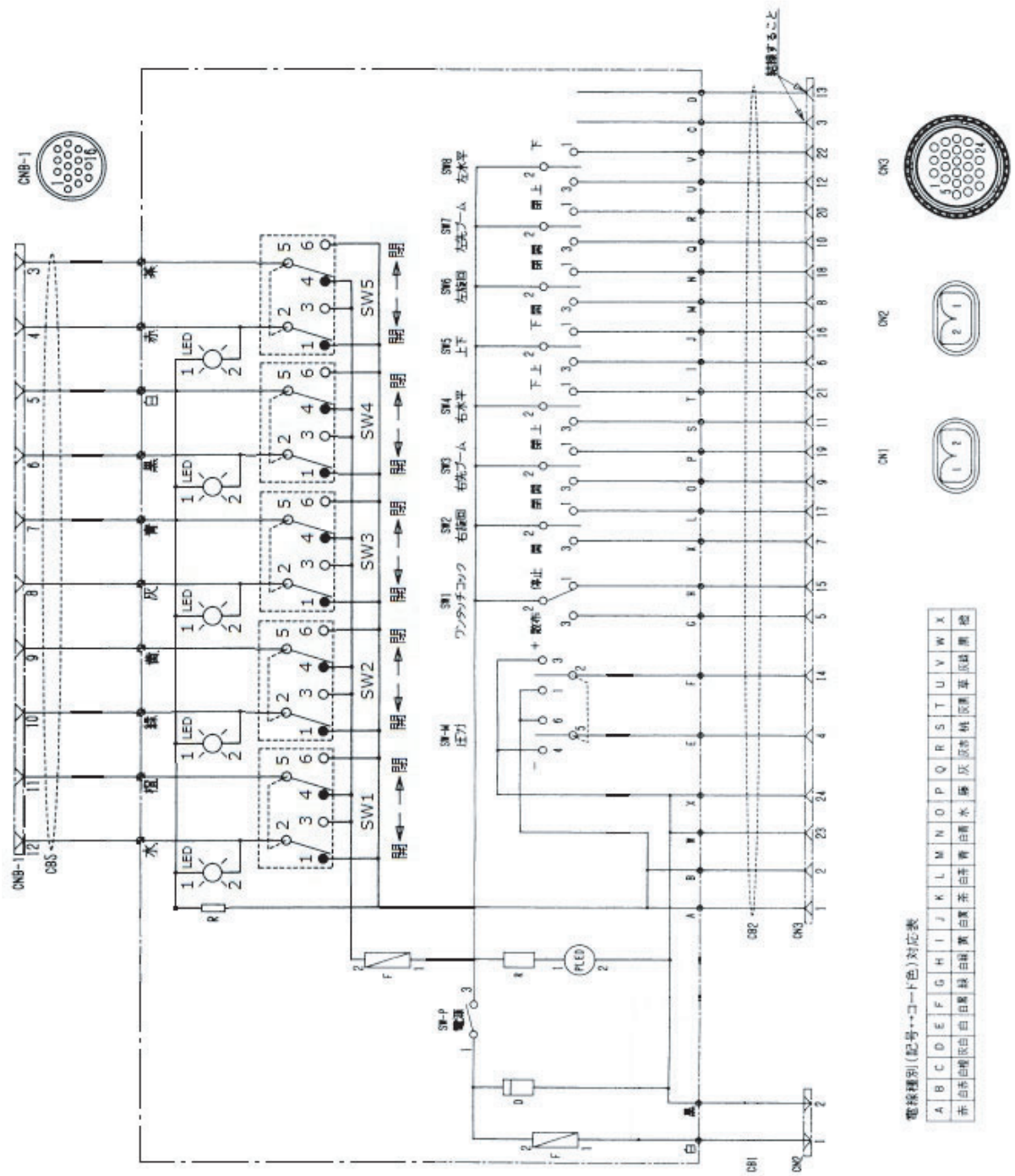
不調の状況	原因（点検箇所）	処理
ブーム/散布コントローラのパイロットランプが点灯しない	1. 電源ヒューズが切れている	配線をチェックし、ヒューズを交換する
	2. バッテリーターミナルがゆるんでいる	点検する
	3. ハーネスのカプラがロックされていない	確実に押し込んでロックする
トラニオンから異音がする	1. トラニオンのグリス切れ	グリスを注油する
	2. ブッシュの摩耗	販売店へ依頼
ノズルから散布されない	1. ノズルが詰まっている	ノズルの詰まりを取り除く
	2. 散布圧力の見直し	散布圧が 0.4 MPa ～ 3.0 MPa 以内で散布をする
	3. センサの破損	販売店へ依頼
散布圧力が上がらない	1. ポンプ回転が低い	規定回転数に合わせる
	2. ノズルが摩耗	新品と交換する
	3. 電動コック、メインコックが摩耗	新品と交換する
	4. 噴霧量の多いノズルを使用している	適切なノズルと交換する
	5. 配管、シール部から水漏れ	パッキンが入っていることを確認し、十分に締めなおす
ブームが動かない	1. 作動油の油温が高い	作業をやめて油温を下げる
	2. 作動油にごみが混入し、油圧配管が詰まっている	作動油を入れ替える
	3. ハーネスのカプラがロックされていない	確実に押し込んでロックする
	4. ハーネスの断線	販売店へ依頼
	5. 電磁弁の故障	販売店へ依頼

10. 仕様

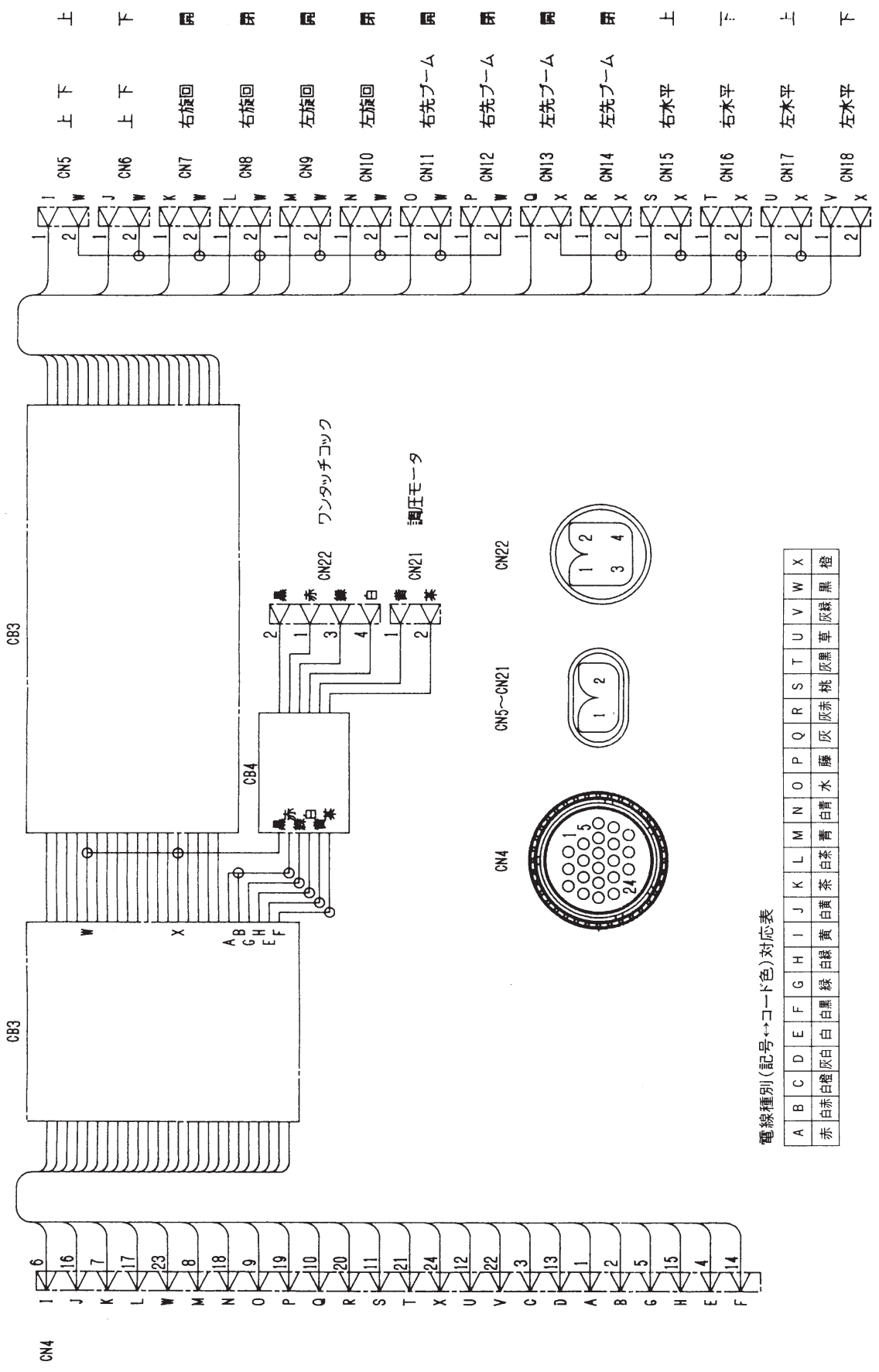
型式			BSQ4000S
項目		単位	
寸法	長さ×幅×高さ	mm	5600 × 2800 × 3000
乾燥重量		kg	2,470
PTO 回転数		r/min	300 ～ 400（回転表示 700 ～ 950）
薬液ポンプ	型式	--	ダイヤフラムポンプ（BHA160 × 2 連）
	最大吐出量	r/min	300（ポンプ PTO 550 r/min 時）2 連合計
	圧力	MPa	5.0
	常用散布流量	L/min	散布 182（350 r/min,（回転計表示 850 r/min)）
	常用 PTO 回転	r/min	散布 350（回転計表示 850）
	常用圧力	MPa	3.0
給水ポンプ	型式	--	KL65H（渦巻き）
	口径	--	2・1/2
	最大吸水量	L/min	650
	最大 PTO 回転数	r/min	400（回転計表示 950）
薬液タンク	材質	--	グラスファイバー強化プラスチック（F.R.P）
	容量	L	4,000
	撹拌装置	--	給水ポンプ循環式
油圧装置	方式	--	油圧ポンプ方式
	オイルタンク容量	L	8
	油圧オイル	--	タービン油＃ 32
ブーム装置	型式	--	油圧式 3 段スライドブーム
	型式ノズル個数	個	85（カニ目 2 頭口 φ 0.8） 85（やまびこ B6） 43（AD-IA 110-06）
	散布幅	m	12.3 ～ 25.5
	散布圧	Mpa	0.4 MPa ～ 3.0 MPa
	全散布量	L/min	155　散布圧 3.0 MPa カニ目 2 頭口 φ 0.8 使用時
	水平角度調整	--	上方 30°　下方 5° 油圧式
	高さ調整	mm	600 ～ 2,000
	ブーム開閉式	--	--
車輪	タイヤサイズ	ﾌﾟﾗｲ	標準タイヤ　10.0-20-10PLY
	輪距調整	mm	1,320 ～ 1,440 (2.2 尺～ 2.4 尺)：手動式
	方式	--	1 軸 4 輪
SNU 仕様内容	定格電圧	V	DC14.5
	動作電圧範囲	V	DC10 ～ 16 V
	動作温度範囲	℃	- 10℃～ 50℃
装備内容		--	共立自動制御式農薬散布装置 7 連電磁油圧バルブ・5 連水止めバルブ ブーム / 散布コントローラ（電動ワンタッチコック付き）
適用トラクタ	目安出力	kW（PS）	44（60）～

この仕様は予告なしに変更することがあります。

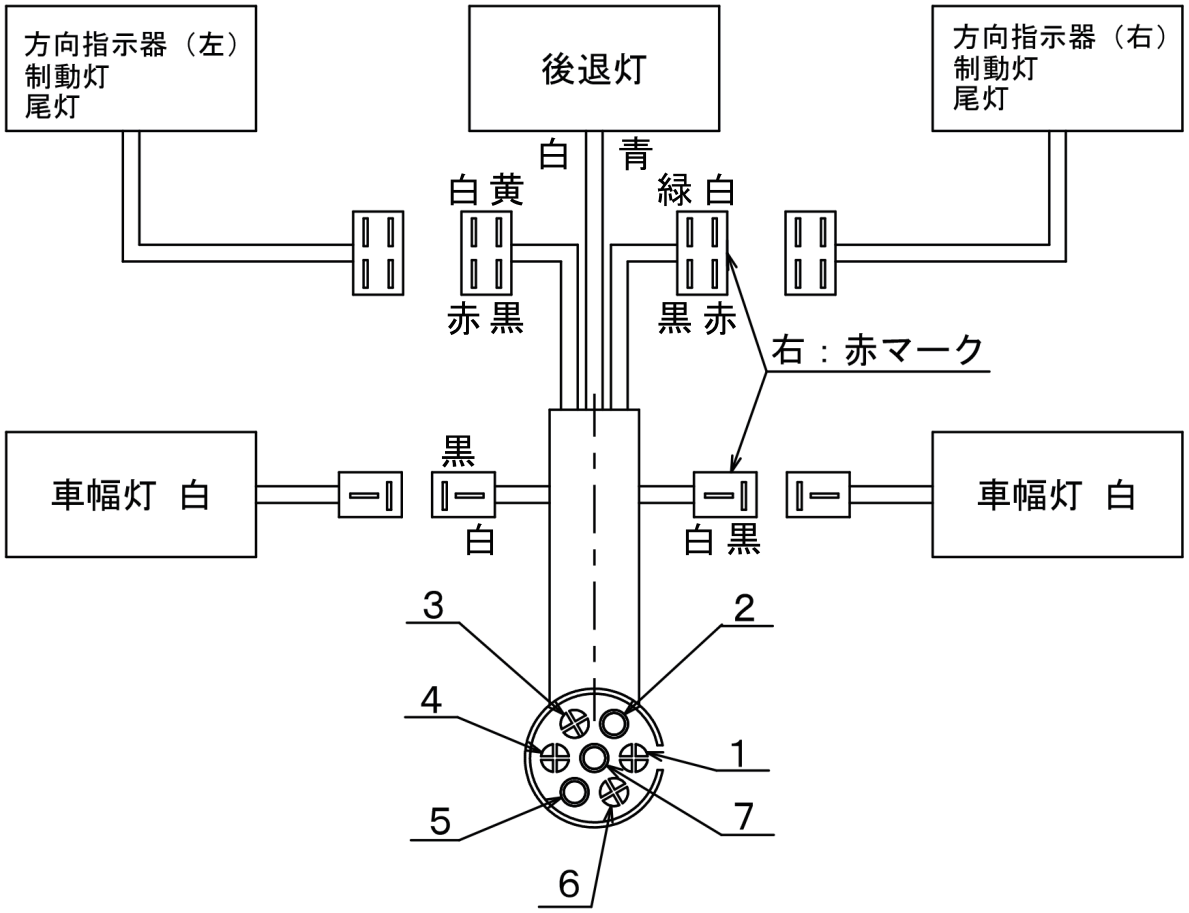
11. メインコントローラ配線図



12. 負荷コード配線図


CN5 上
CN6 上 下
CN7 右旋回
CN8 右旋回
CN9 左旋回
CN10 左旋回
CN11 右先ブーム
CN12 右先ブーム
CN13 左先ブーム
CN14 左先ブーム
CN15 右水平
CN16 右水平
CN17 左水平
CN18 下
CB3
CB4
CN22 ワンタッチコック
CN21 調圧モータ
CN4
CN5~CN21
CN22
電線種別(記号↔コード色)対応表
A 赤
B 白赤
C 白橙
D 灰白
E 白
F 白黒
G 緑
H 白緑
I 黄
J 白黄
K 茶
L 白茶
M 青
N 白青
O 水
P 藤
Q 灰
R 灰赤
S 桃
T 灰黒
U 草
V 灰緑
W 黒
X 橙

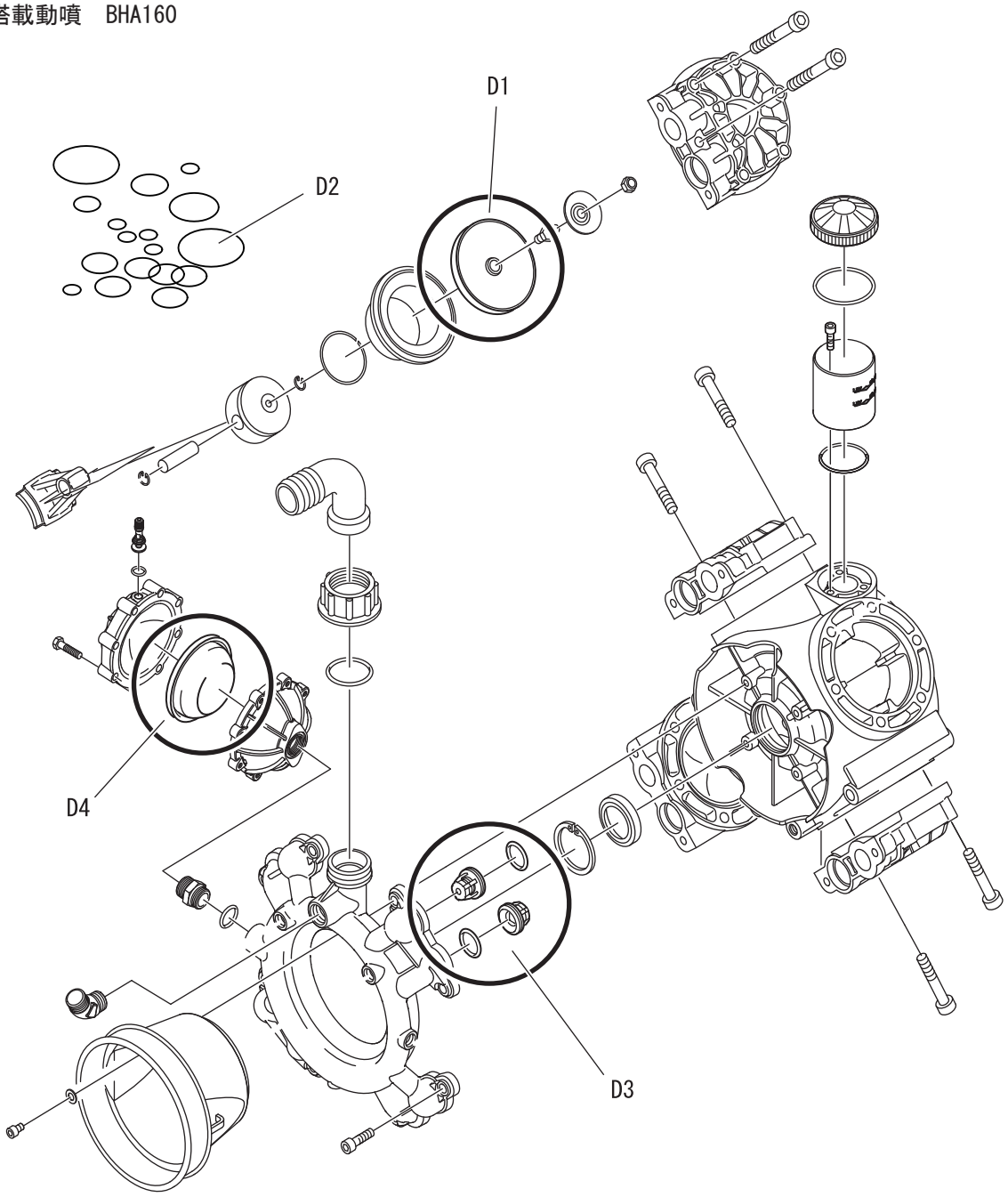
13. ウインカーコードカプラ配線図



端子番号	線色	接続回路
1	緑	方向指示器（右）
2	――――	無
3	赤	制動灯
4	黄	方向指示器（左）
5	青	後退灯
6	白	接地（アース）
7	黒	尾灯、車幅灯

14. 補用品と消耗品

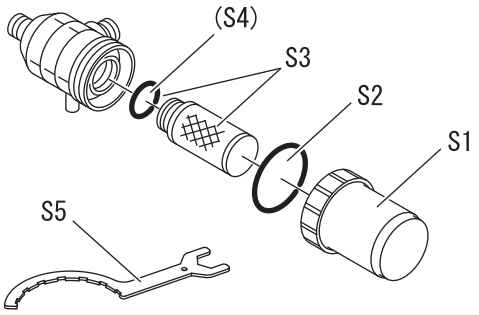
搭載動噴　BHA160



番号	部品番号	部品名
D1	088643206	ダイヤフラム 4 枚キット
D2	08862457	0 リングキット
D3	088643356	吸排弁 8 個キット
D4	0886550190	エアチャンバーゴム

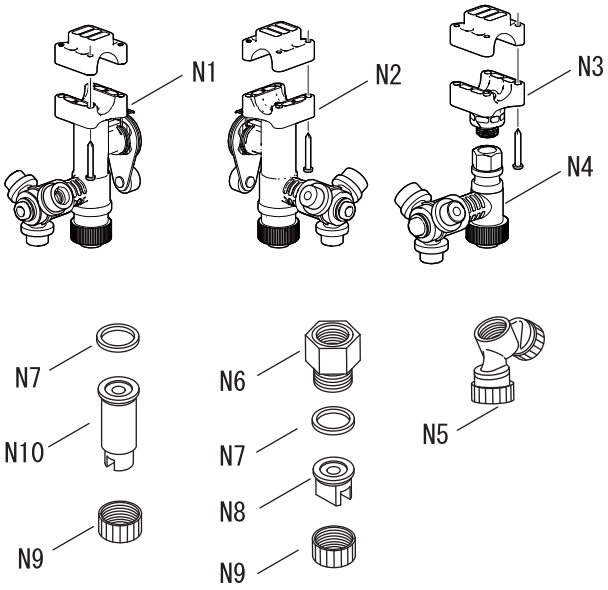
15. 補用品と消耗品

吸い込みストレーナ



番号	部品番号	部品名
S1	317000020	フィルターキャップ
S2	1500003D	0 リング
S3	4034300690	ストレーナロングタイプ
(S4)	4031506001B	上記のパッキンのみ
S5	0001532078	ストレーナフタ取外し工具

ノズル



番号	部品番号	部品名
N1	E251000130	コックアーム R
N2	E251000120	コックアーム L
N3	E297000160	ノズルブラケット
N4	E292000260	ノズルアダプタ
N5	4031300003	カニ目 2 頭口 φ 0.8 付
N6	K360000032	ノズルボディ
N7	K482000030	ホース 3/8 パッキン
N8	E2900000631	やまびこノズル　グレー
N9	C206000020	キャップボディ（赤）
N10	E290000910	ノズルチップ AD-IA 110-06
	E41207	アンチフリーズ（不凍液)20 L

メモ

メモ

メモ

株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0120-176-181(製品・技術的な問い合わせ)
受付時間:弊社営業日　9:00～12:00 / 13:00～17:00

やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0428-32-6181 (代)

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X753-008116
X753640-0306

© 2020 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。